



珀石 悲鳴
高慢と

作 切傷甲

「え？ もうお金
払えない？」

「あっそ！
じゃあ 明日から
アンタもイジメの
対象だからね！」

「うわあ！
ひどい
点数！」
「アタシだって
恥ずかしく
生きていけ
ない！」

「頭悪い人って
羞恥心も無いの？」

「聞いたわよ
アンタの両親
略奪婚らしい
じゃない？」

「人の物を欲しが
る卑しい血が流
れているのね
おこね！」

「プッ！
チッマ！」

「そんな足の
短さでよく
アイドルなんて
出来るわねえ」

「やだやだ……
レベルの低い
奴らばっか！」

「もう少し
アタシを見習って
欲しいわ！」

「お前たち
どうしたんだ？」

「先生！
私達もう
耐えられません！」

「シャーリーの
ワガママに皆
苦しんでるんです！」

「もうこんな
学校生活
耐えられない！」

「なるほど……
そいつは大変そうだが
先生がなんとか
してやろう……
ククク……！」

準備室

「おい
シャーロット！
お前ちょつと
やりすぎだぞ！」

「もつと皆と
仲良くしようよ
思わないのか！？」

「はあ……？」

「聞いたぞ
お前が友達に
いやがらせばかり
しててっつな」

「そんな事して
心が傷ま
ないのか？」

「……………」

「友達？ 誰が!?
アイツらは動物よ!」

「下等な連中を
畜生扱いして
何が悪いって
言うのよ!」

「何だこゝろ!」

「!!」

「成る程な……
それがお前の理論か」

「自分より劣った
人間は畜生扱いして
良いんだな?」

「なっ ちよっ……!」

「は 離しなさいよ
ゴミクズ!!」

「そ せうよ!
クズはクズ扱い
されるべきなのよ!
アンタも一緒よ!」

「うるせえんだよ!!」

「!？」

「きゃああああっ!!」

ビッパッパッ

「オラァ!!
クソガキがあ!!」

「うざやつ!!」

バ
ン

「な 殴った……!?
このアタシを……!?」

「ゆ 許さない!!
お父様に
言い付けて
やるんだから!!」

「クス風情が
このアタシに手を
上げた事を死ぬ程
後悔してもしらうわ!!」

「何を偉そうに
ほざいてやがんだ
パイオツ丸出しにして
言う台詞じゃねえだろが!!」

「えっ ばい……?
あ ああつ!!」

はかん

「きやあああつ!!
見るなあああつ!!」

「なんだ
自分から見せてたんじゃ
無かつたのか ククク」

「エロい巨乳見たり
こんなになっちまっただよ」

「ひっ!
ひいっ!」

「どうにかしてくれよ
シャーロットちゃん
よお〜!!」

「いやあああ!!
触るなあああ!!」

「すい!」

「おきやう」

「もみい!」

「何でダメなんだ?
劣った人間には
どんな扱いしても
良いんだろ?」

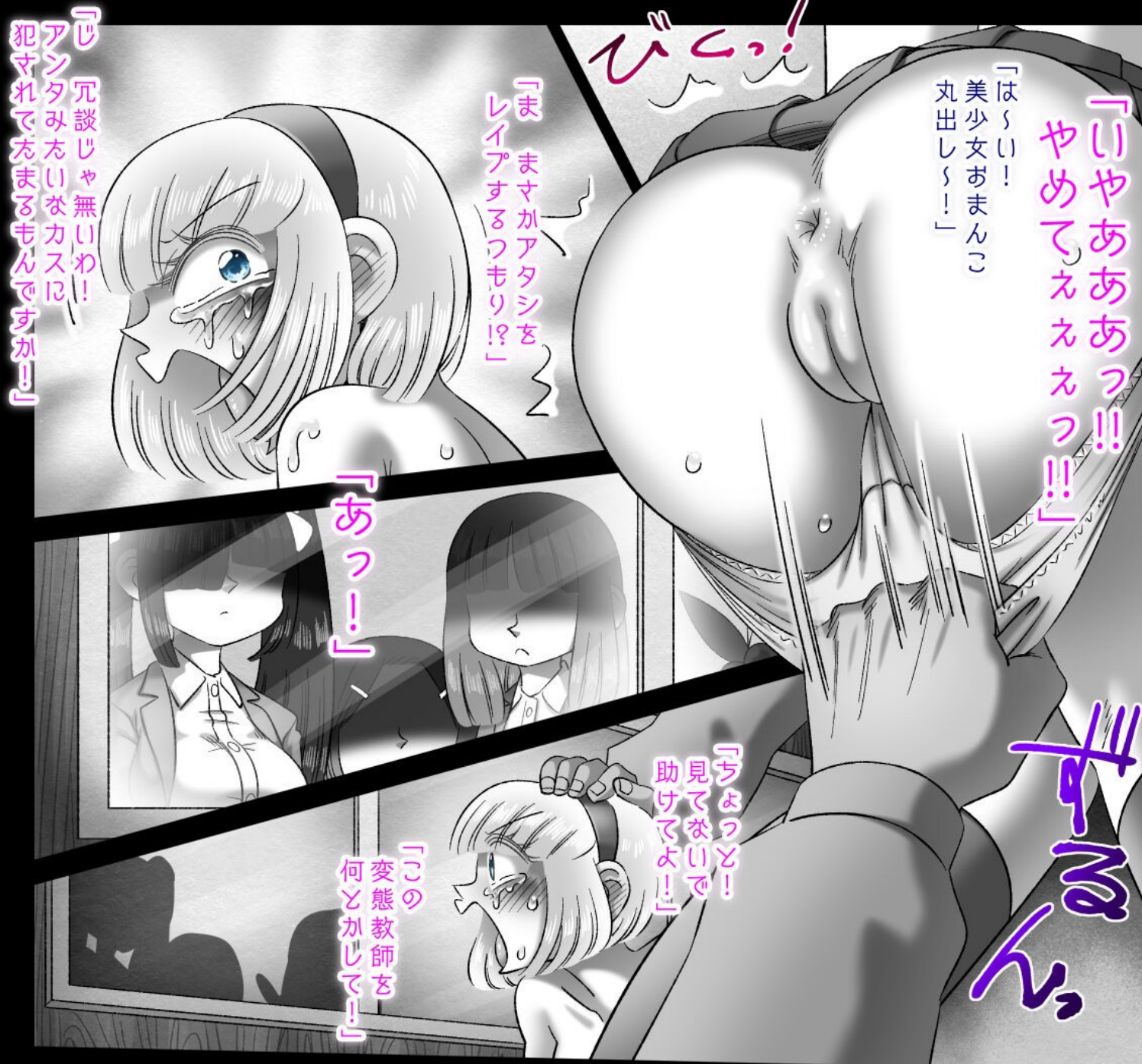
「ふふやけないで!!
劣ってるのはアンタの
方でしょうが!!」

「ズい」

「俺が劣ってる?
なり今すぐ俺に
勝ってみろよ」

「弱っちい女じゃ
無いって事を
俺を跳ねのけて
証明してみろや」

「あっくつ ふざけ……!!
アタシは何するつもりよ!!
離して!! 下着ずらすな!!
本当に人生終わらすわよ!!」



びっ!!

「いやあああつ!!
やめてえええつ!!」

「はっい!
美少女おまんこ
丸出しっ!」

「ま ままがアタシを
レイプするつもり!?」

「あっ!」

「ちよつと!
見てないで
助けてよ!」

「この
変態教師を
何とかして!」

ずるん



「うひよお!
色白美少女の
生尻おまんねえ!」

「いやあああつ!
そんな汚いモノ
擦り付けないで!!
誰か 誰か あ!!」

「誰も助けに来ねえよ!
お前みたいなたんぱく質を
救って何の得がある?」

「そ……
せんなつ!」

スッ

スッ

スッ

「レイプされちゃう!!」
「犯されちゃう!!」

「いや いや……
そんな……
やめて……」

「は
入っちゃ……」

「オラァ!!
処女膜ブチ破り
イイイ!!」

「うげええええええええええ!!」

七ノ



三



「ひっさすないでっ!!」
「お願いでっ!!」

「マジでこのクソ弱っちいクソガキぶっ殺しなうて来なせ!!」

「殺しなかり犯す！
犯しなかり殺す！」

「ぎゃっ!!
うぎひいっ!!」

「お前が死んでも
誰も悲しまねえ!!
なり殺して良いよなあ!？」

「ぐっぐるじっ……！」
「やめでっ……!!」
「ごろやないでえ……!!」

「ぐえっ……ぐえっ！
ゆる……じでええ……！」

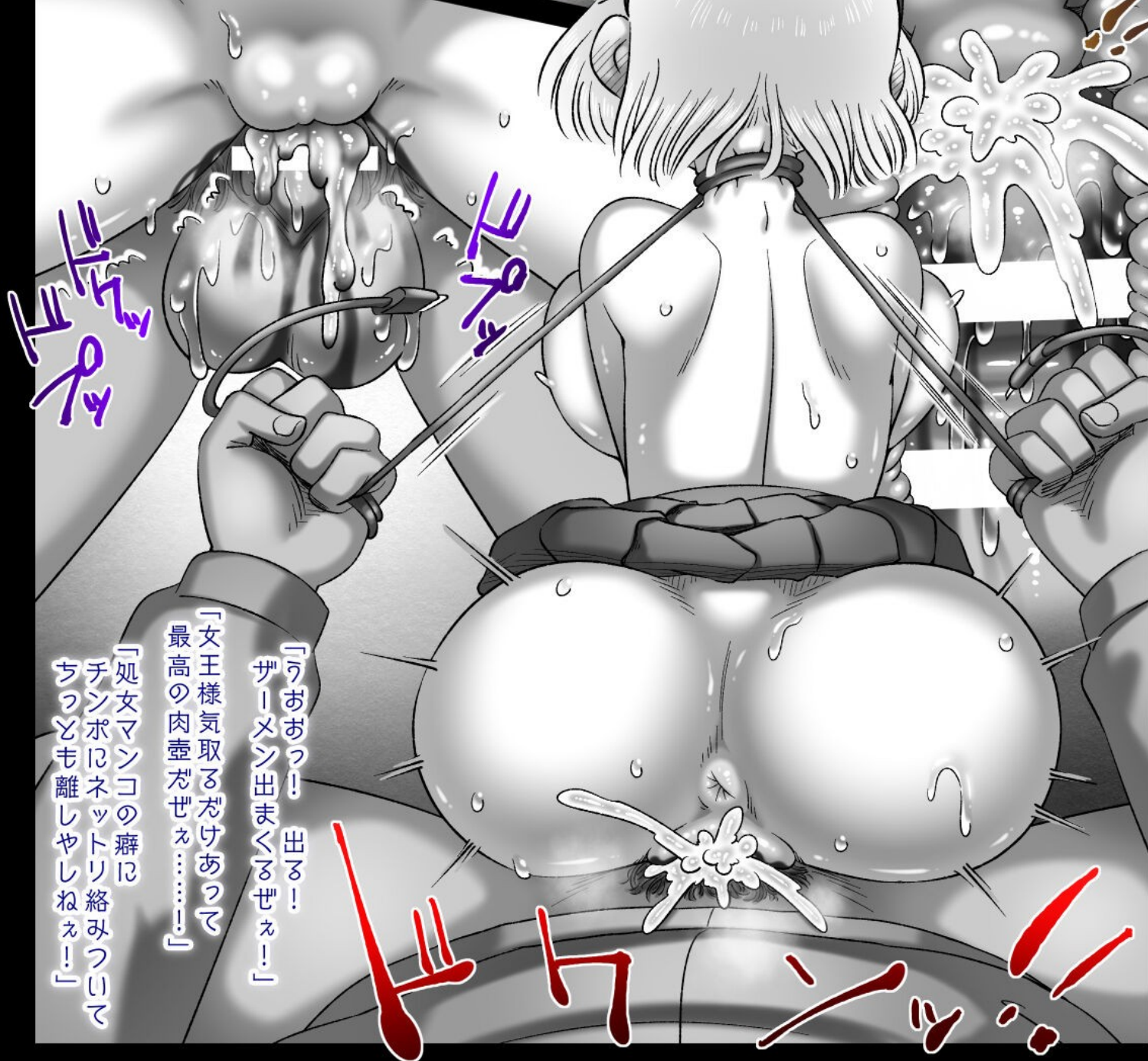
はん

ズビュルズビュル

「殺されながら
孕みやがれ!!
シャーロットオオオ!!」

「うぐげええええっ!!」

「げっ……!!
うげ……!!
うげええ……!!」



「女王様気取るだけあつて
最高の肉壺だぜえ……!!」

「処女マンコの癖に
チンポにネットリ絡みついて
ちっとも離しやしねえ!!」

「うおおっ! 出る!
ザーメン出まくるぜえ!!」

「中出し止まらねえ！
こんだけ出りゃ
確実に孕んだな！」

「かはっ……！
げっ……げえ……！」

「初セックスがレイプで
おまけに孕まされるって
どんな気分だ？ え？」

ギリ

ギリ

ギリ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

「おつとすまねえ
力入れ過ぎちまった」

「まだ殺すワケには
いかねえよな？」

スルリ

「げほっ……！
げほっ……！」

ビュッ

「別にここで
殺しちゃっても
構わねえんだが
後片付けが
面倒だからな」

「それに もっと
楽しませて
もらいたいよあ」

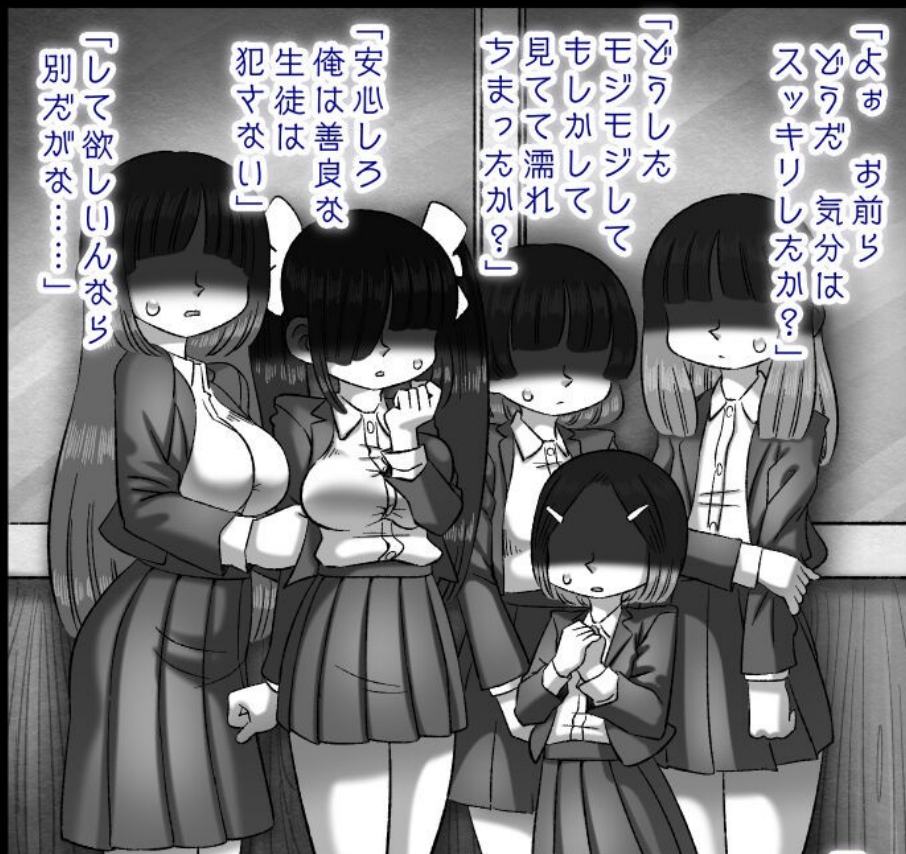
「たっぷり
犯してやるぜ
シャーリーちゃん！」

グッ



「お前らは善良で従順な生徒だよな？」

「俺の言ってる事理解出来てるよな？」



「よぉ お前らどうだ 気分はスッキリしたか？」

「どうしてモジモジしてもしかして見てて濡れちまったか？」

「安心しろ俺は善良な生徒は犯さない」

「して欲しいんなら別だがな……」



「ククク……」

「コイツも早く善良で従順な生徒にしてやらないとな」

「それで良いこれくらいしばらくシャーロットは俺が預かる」

「……は はい！この事は誰にも言いません……」

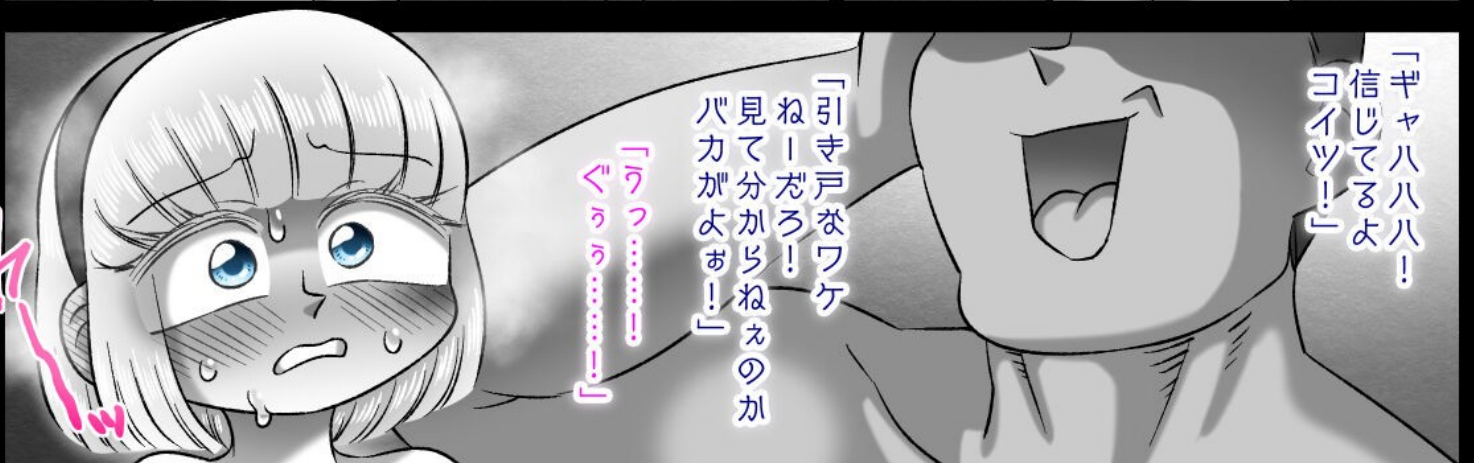
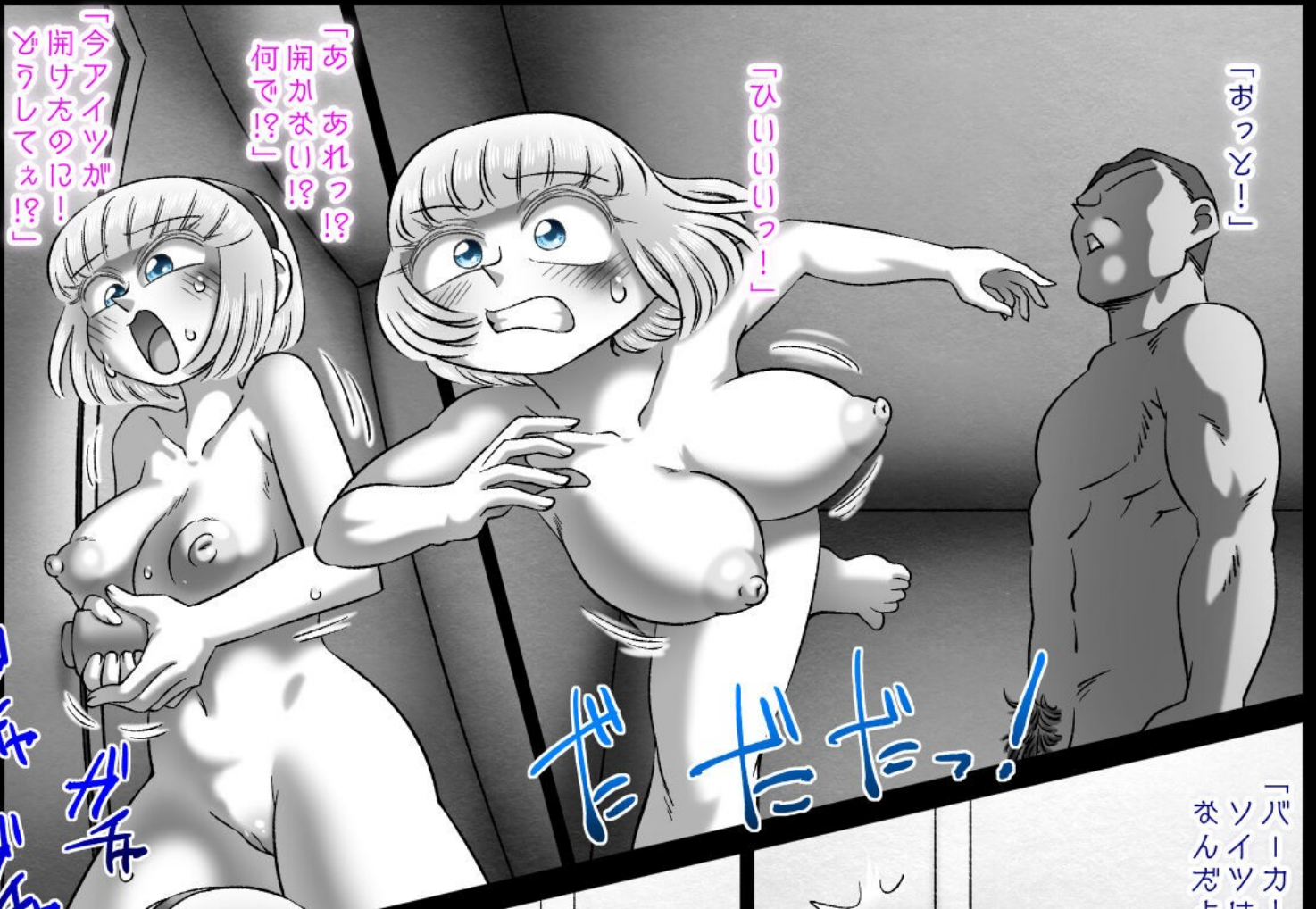


「なんだまだ寝てるのか？ぐうたらな女だ……」



「シャーロット……」

ガキ



「そんな簡単に
この地下室から
逃がすと
思ってたのか？」

「いや……」

「お前には
ちっぷりと
オシオキ
してやる」

「来ないで……」

「人を蔑む権利なんて
自分には無いって事を
その身体で理解させてやる」

「ううう……」

「やだ……
やだあ……」

「アイ
アイ
ブル」

「おっ おねっ
お願いっ……！
犯さないで……！」

「ガッ
ガッ」

「あ 謝るっ！
謝るからっ！
だかられっ
レイプしないでっ！」

「安心しろ……
俺はレイプなんか
しない……」

「えっ……？」

「俺はな……」

「お前を
ぶん殴りに
来ちんだよ」

「……あ」

「あ……
いや……
いやあ……」

「よし
じゃあまずは
渾身の一撃を
腹にお見舞いするか」

「や
やだっ！
やめてっ……！」

「アタシっ 酷い事しただ
暴力だけは振るって無い！」

「いやっ！ 来ないでっ！
暴力は止めてっ！
お願いだからっ！」

「うげっ！
ぐげっ！
おげえええっ！！」

「言い訳すんじゃない
クソがキイイ！！」

「大人しく殴られろ
雑魚メスがああ！！」

ドス！
ドス！
ドス！！

「泣けば許されると
思ってたのかコラ!」

「ぎゃふっ!! うぎゃひっ!!
やめっ やめでええっ!!」

「なら思う存分鳴け!
ガマガエルみてえにやあ!」

「げっ げえっ
げばううっ!」

ゴス!
ゴス!
ゴッ!

「オラッ!
好きならだけ
吐いて来いや!!」

「げぼっ!!」

「げえええっ!
おげえええっ!」

「げぼぼぼっ!
げろろろっ!!」

グッ!

ぴゅあぁぁ



「どうする？
このままぶん殴られ
続けるかレイプか」

「好きな方
選ばせて
やるよ」

「あ……あ……
やだあ……」

「あうっ あうっ……
レイプ……レイプで
お願いします……」

「だから もお
殴らないでえ……」



「よし じゃあレイプだ
これはお前が選んだんだ
お前が望んだ事なんだぜ？」

「自分から
犯されたがるなんて
とんでもねえオサセな
女だな！」

「やだ……
なんで……
どうしてこんな事に
なっちゃったの？」

「このアタシが……
こんな変態に……」



「日頃の行いのせいだろうが！
この世は正義が勝つように
出来てんだよ！」

「あう……
あうっ やだあ……
入っちゃう……
また犯まれちゃうよ……！」

ズン！！

「オラッ！
奥まで一気に
入ったぞ！」

「今度はじっくりと
楽しませてもらうぜえ！」

「金髪美少女の
ツバ舐めませうや！」

ズン
ズン
ズン

「ううっ ううっ！
んむうううっ！
やめへええ……！」

「ぶはっ！
あああっ！
やだあああっ！
ファーストキス
なのがいいっ！」

ぬん
はは
はは
はは

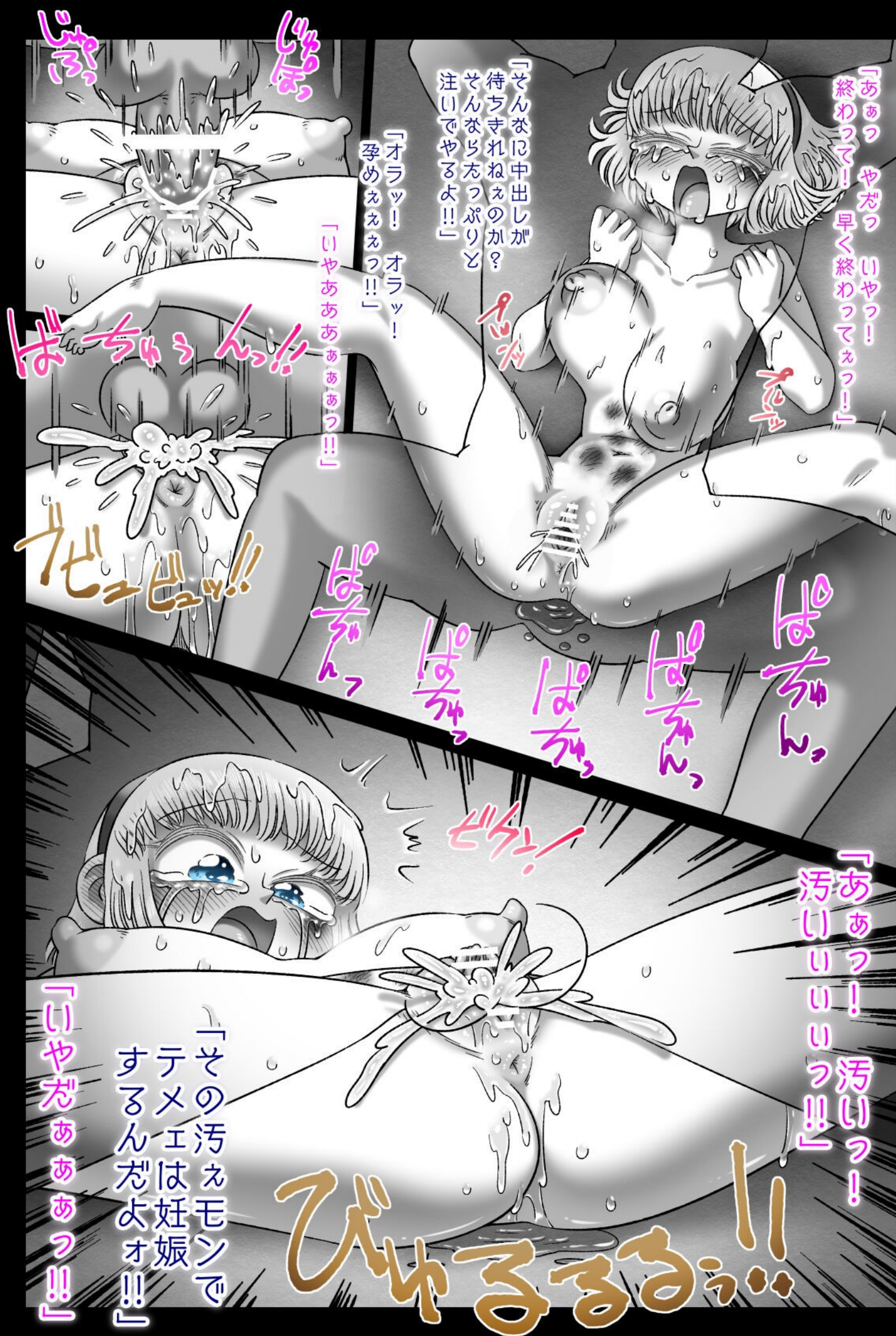
「イチイチ逆らうんじゃねえ！
またぶん殴られてえのかコラ！」

「ひっ！
いいいやっ……！
ごめんなしゃいっ！」

「女らしいエロ声上げて
犯されてりゃ良いんだよ！」

「うう ううう……！
ぐすっ ぐすっ……！
何で…… 何でえ……！」

はは
はは
はは





「ラッ
フーッ」

「身体だけは
本当に
イイ女
だぜ……」

ビクッ

ビクッ



ずる
ずる

「ぐすっ
ぐすっ……」

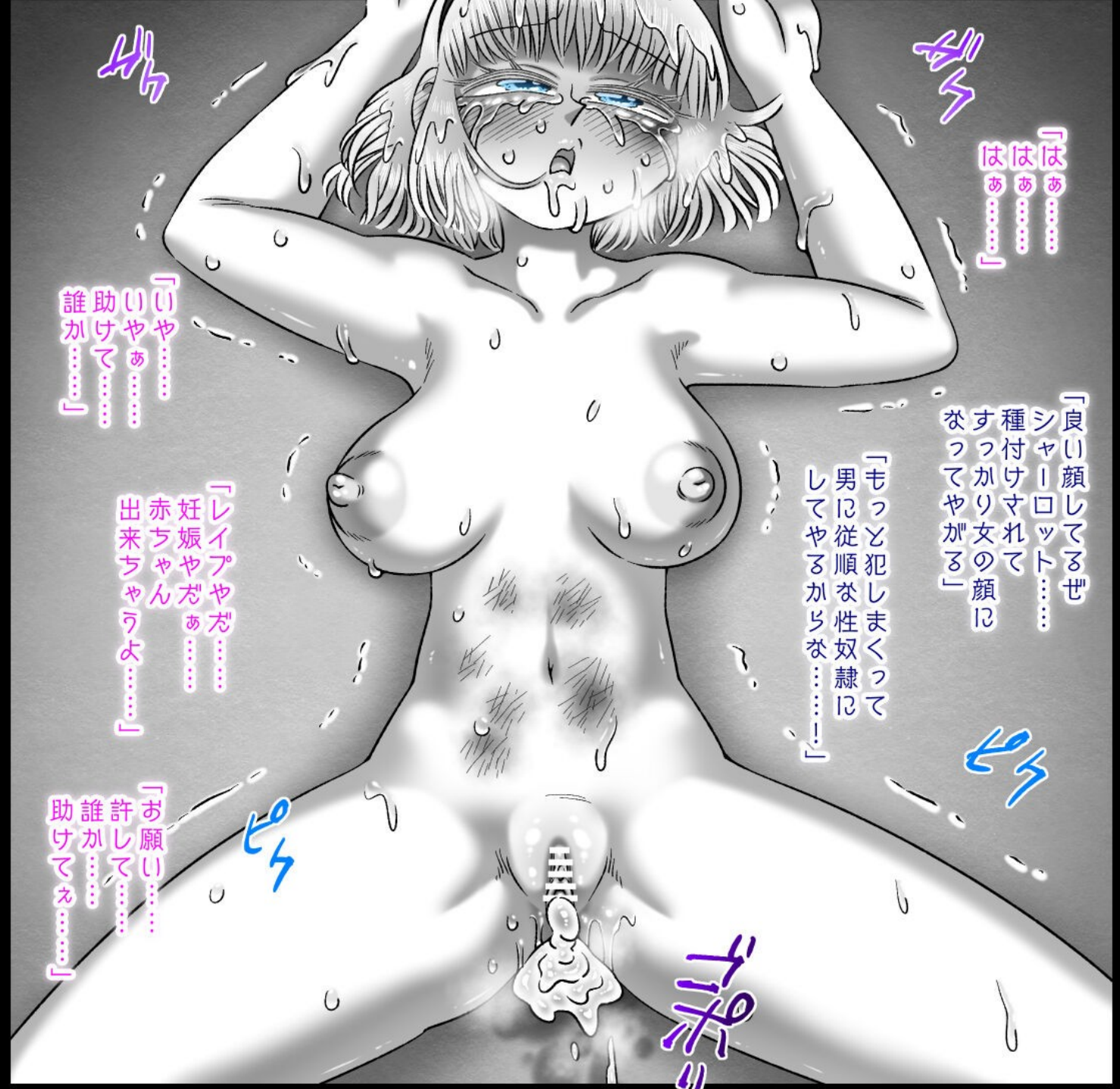
「あうう……」



アハハ

「ラッ……」

ビクッ



「はあ……
はあ……
はあ……」

「良い顔してるぜ
シャーロット……
種付けされて
すっかり女の顔に
なってるやがる」

「もっと犯しまくって
男に従順な性奴隷に
してやるからな……」

「レイプやだ
妊娠やだ
赤ちゃん
出来ちゃうよ……」

「いや……
いやあ……
助けて……
誰か……」

「お願い……
許して……
誰か……
助けてえ……」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「シャーリーが
消えてから
二週間……」

「まだ彼女は
先生に犯されて
いるのかしら……」

「やっぱりアレは
やりすぎ
なんじゃ……」

「まさか先生が
シャーリーを
レイプする
だなんて……」

「嫌な事はかり
言われたけど
そこまでする程
じゃ無い……」

「いくら何でも
可哀想……」

「あんなやり方
間違ってるんだ」

「今からでも
先生にやめて
もらうべき？」

「大事になる前に
止めないと……」

「平気！
平気！」

「気にすんなって！」

「そうよ！
ほっとけば
良いのよ！」

「元はと言えばあの子が
悪いんじゃない！
自業自得よ！」

「そ……
そうよね……」

「う……
うん……」

「私達は
悪く無い……」

「……だとよ
友達はまだ
お前を許して
無いらしいぜ」

「……」

「哀れだな……
学校の秘密の地下室で
犯され続けて……」

ぐた……

「必死に助けを求めて
叫び続けた結果が
コレだなんて……」

「……………」

「全く哀れで
笑えて来るぜ」

ぽろ

ぽろ

ズルル

「グク……
すっかり従順に
なっただなァ……」

「……………」

ぽろ

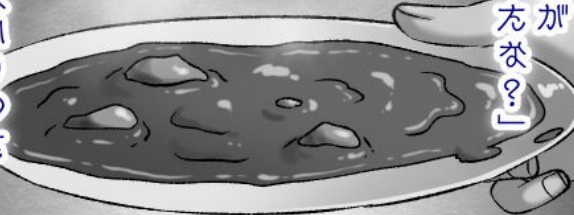
ぽろ

ぐろ

モミ

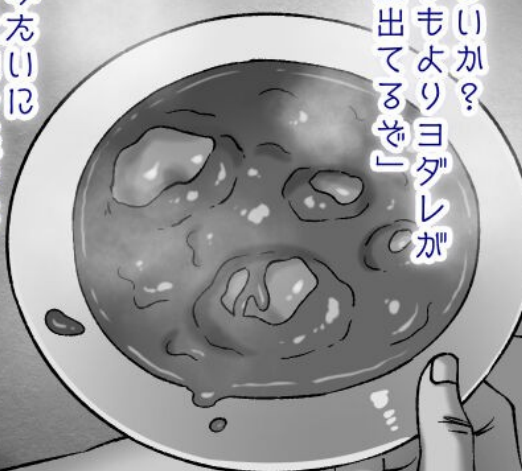
モミ

「温め方ばかりのを
用意してやっただけ」



「欲しいか？
いつもよりヨダレが
沢山出てるぞ」

「犬みたいに
食い意地の張った
卑しい女だ……」



「ククク……」

安心しろ
おしゃぶりが上手に出来たら
ちゃんと食わせてやる……」

「ふふ
うう
つつ
……」

「そうだ
そうやってしつかり
隅々まで舐め回せ」

「卑しい女の口で
ペニスに奉仕しろ」

ん っ っ
ふ っ っ
っ っ っ
っ っ っ
っ っ っ
っ っ っ

じゅんぽう, じゅんぽう, じゅんぽう, じゅんぽう

「よし 出すぞっ!
その生意気な面に
ぶっかけませろ!」

びしょびしょ!!

「あああ……」

ドロ……

「しっかり飲み込め
今のお前には精液も
立派な栄養だからな」

「……………」

いっ……

ゴクッ

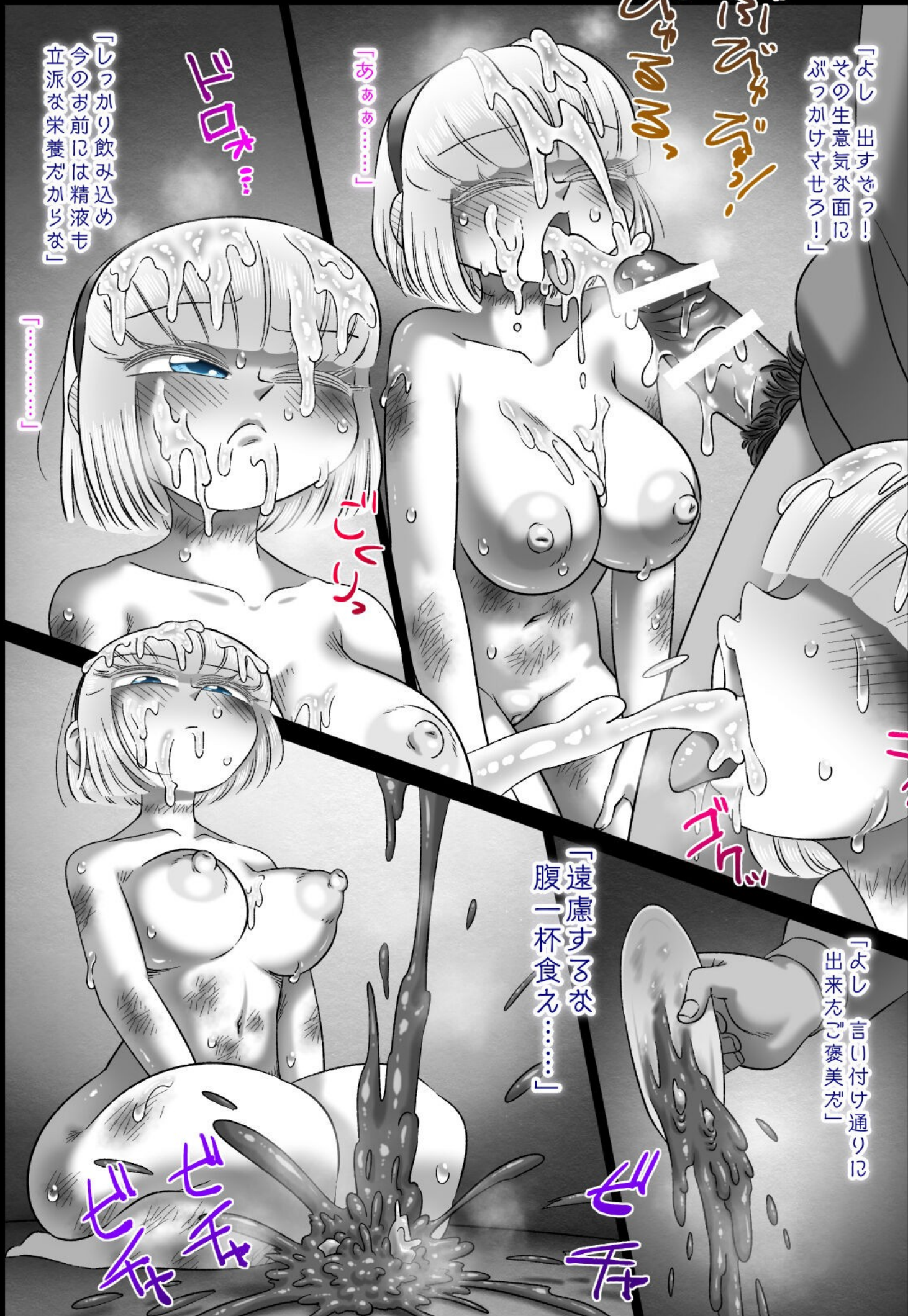
グハッ

「遠慮するな
腹一杯食え……」

「よし 言い付け通りに
出来たご褒美だ」

ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ



「卑しい私に
お恵みくだまり
ありがとうございます」

「全て残らず
味わねせて
頂きます……」

「クク……
くっくっく……
クヒヒヒ……」

「なんて無様な
姿だ……」

べろ
べろ

「これがあの
威張り散らしていた
シャーロットとはねえ」

「ま 畜生以下の
下劣なバカ女には
お似合いの姿だよ」

「……………」

くしゃくしゃくしゃ

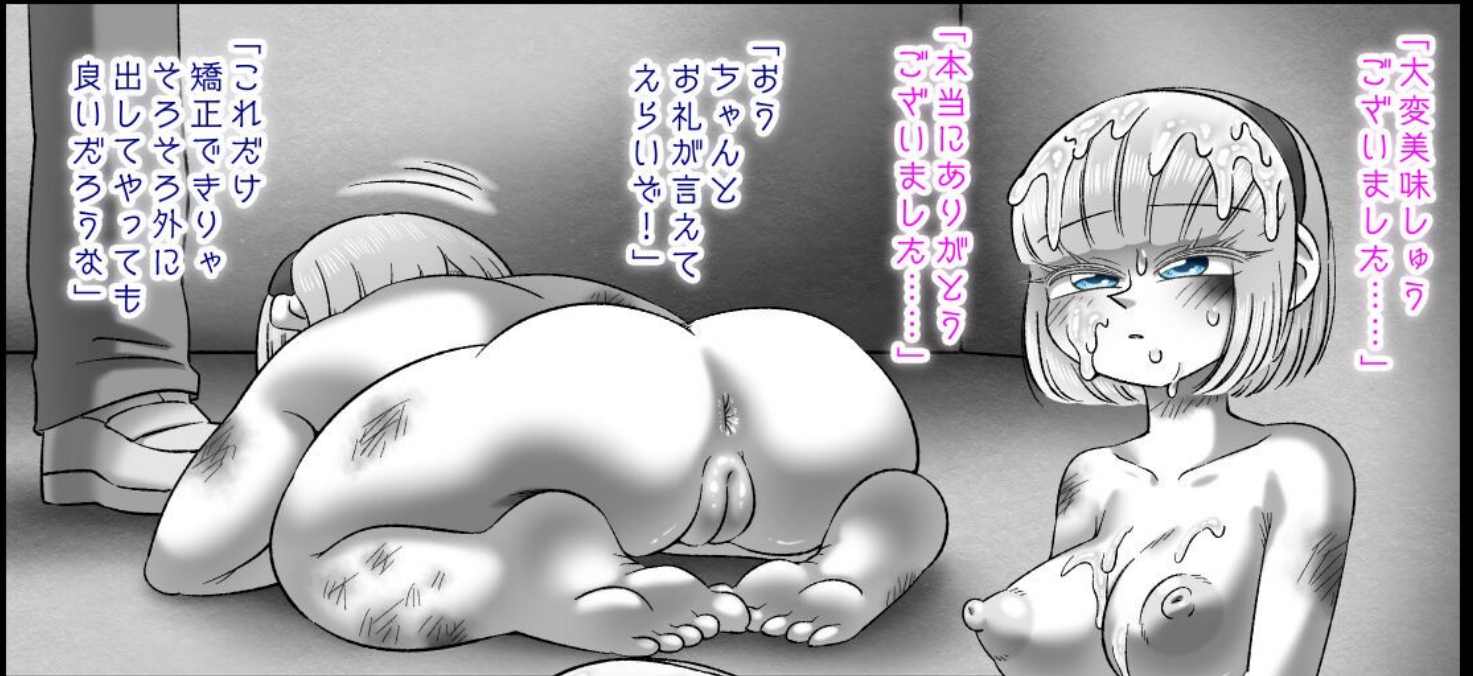
ぺろん
ぺろん

「大変美味しゅう
ございました……」

「本当にありがとう
ございました……」

「おう
ちゃんとお
れが言えて
えらいぞ!」

「これだけ
矯正できりゃ
そろそろ外に
出してやって
良いだろうな」



「ゆ 許して
くれるの!？」

「ああ だが……」

「最後の試験に
合格できたり
だがな……」



「……と言う
ワケで……」

「シャーロットが
ちゃんと反省してるが
皆に判断してもらおう」

「反省文を
書かせたから
皆聞いて
やってくれ」

「よし
シャーロット
反省文を
読み上げなさい」

もじ

もじ



「はい……」

(何が反省文だ
クソ野郎……!!!)

(アタシをここまで
コケにしゃがつて!
このまゝ外に出ろ
すぐさまお父様に
全て言い付けて
全員破滅させてやる!)

(覚悟しろ
下等生物
共が……!!!)

「あひっ!?!」

ビタンッ!

びるるるる

「ちよつ……!!
いきなり何
すんのよーっ!?!」

「なあに!!
ちよつと浣腸
しただけマ」
「はあ!?!」

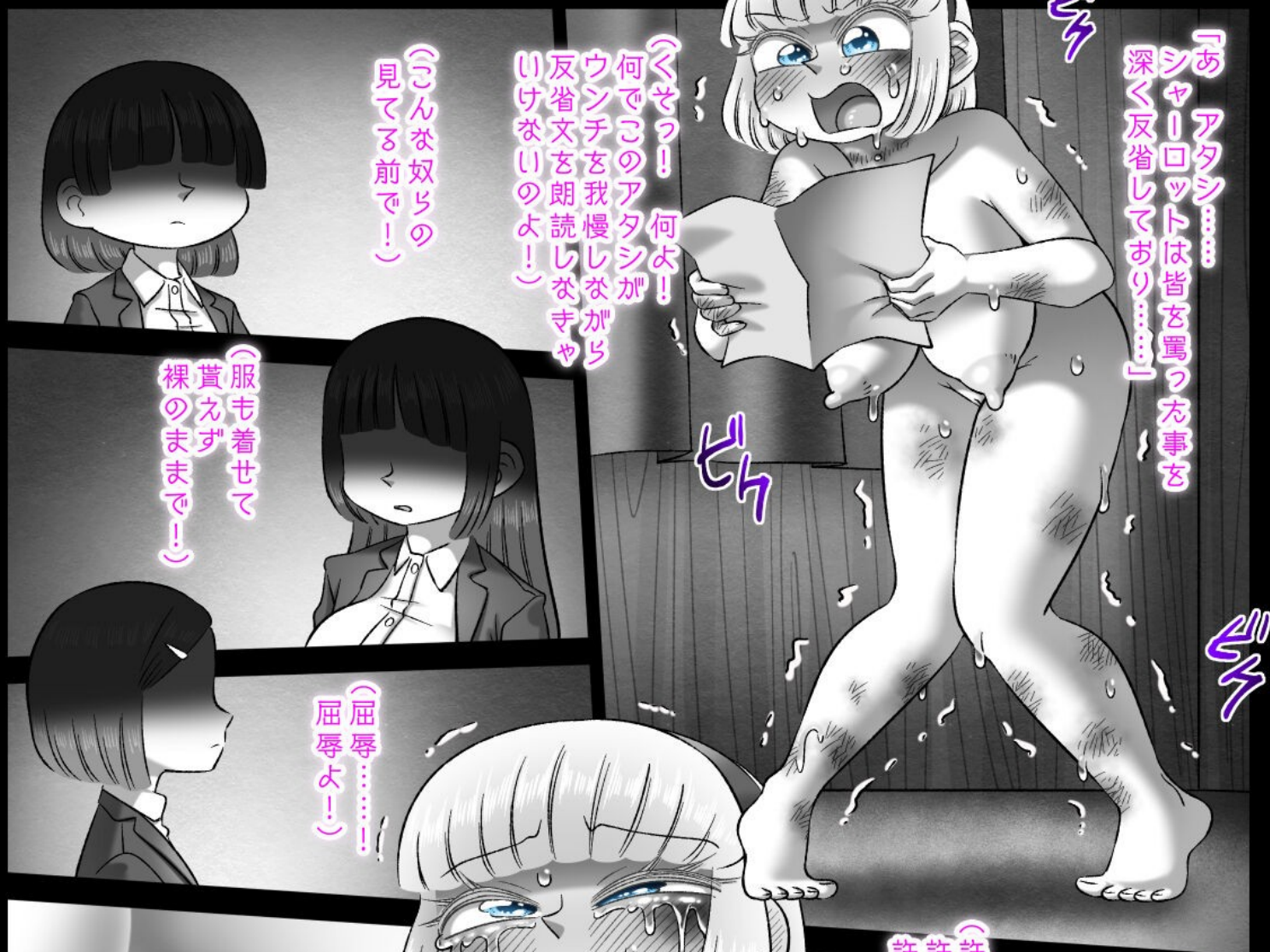
「本当に反省してるなら
糞を我慢しながらでも
ちゃんと反省文を
朗読出来るハズだろ?」

(な 何言ってるの
コイツ……?!
意味わかんない!)



「ほーろ早く読み始めないと浣腸液が染み込んで糞が漏れちゃうぞ?」

「くう……キモイ! 本当に最低! 覚えてなさいよ!」



「あアタシ……シャーロットは皆を罵つた事を深く反省しており……!」

「くそっ! 何よ! 何でこのアタシがウンチを我慢しなきゃ反省文を朗読しなきゃいけないのよ!」

「こんな奴らの見てる前で!」

「(服も着せて貰えず裸のままで!)」

「(屈辱……! 屈辱よ!)」

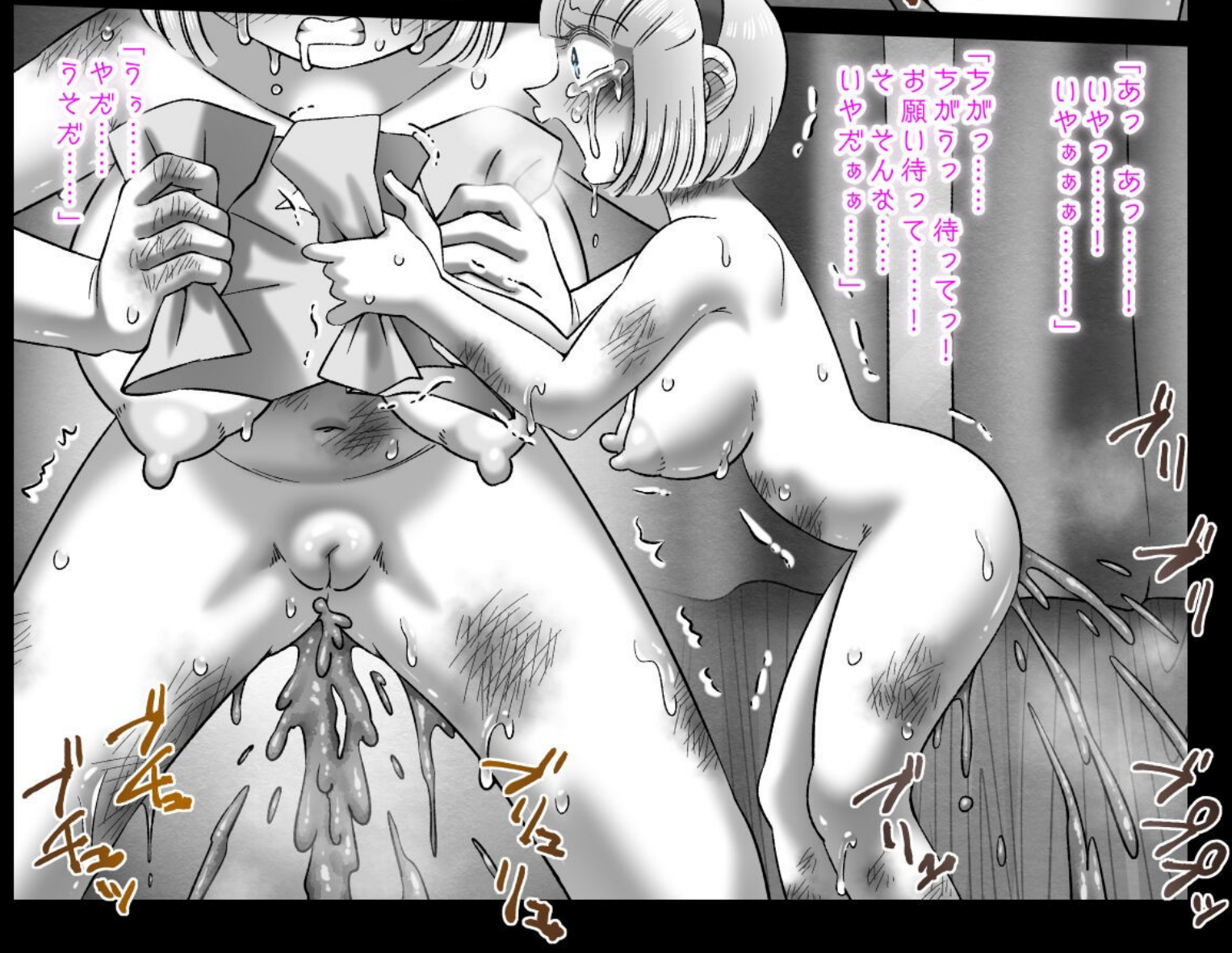


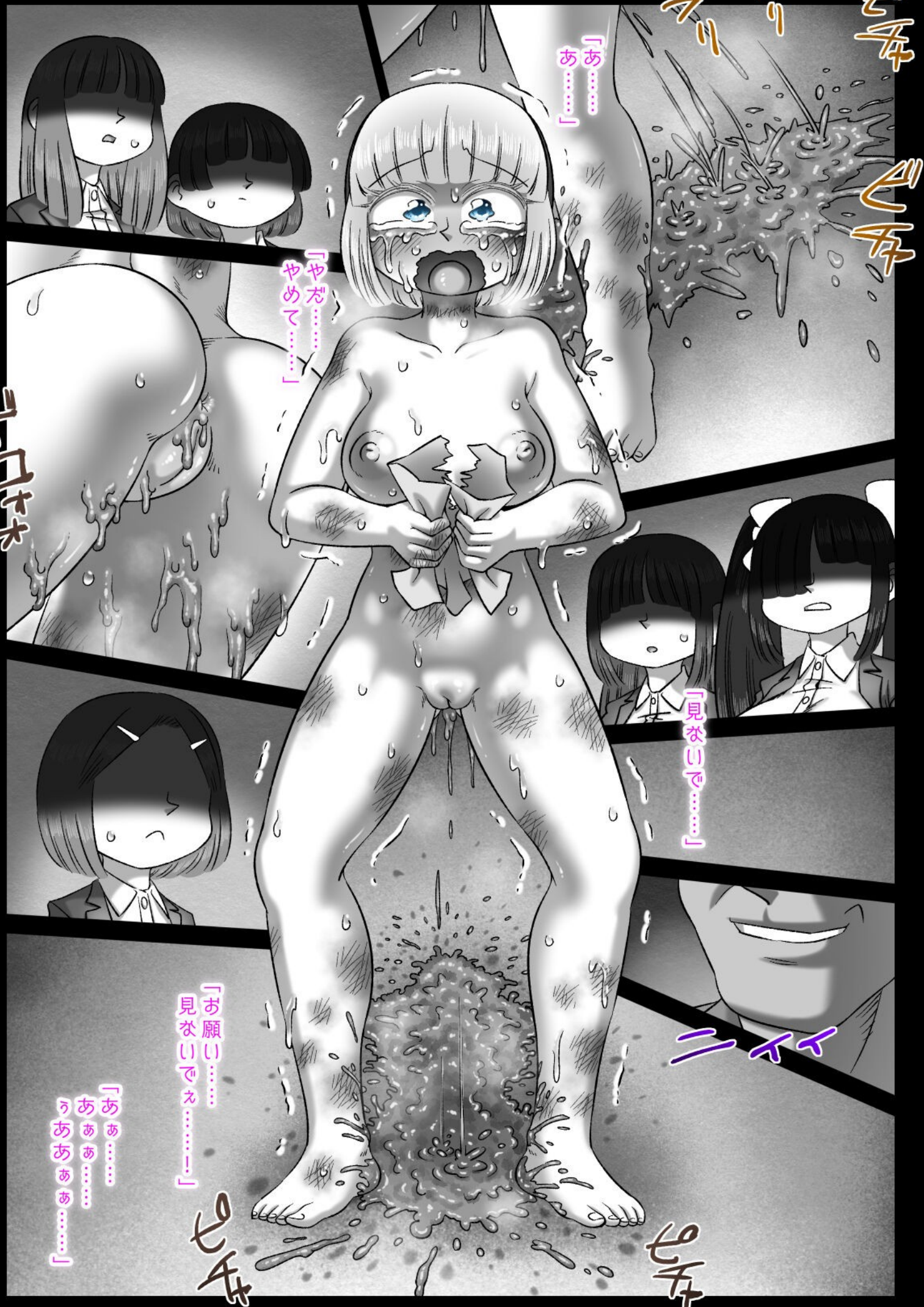
「許さない……! 許さない許さない許さない許さない!!!」

「絶対に許さない! 同じ目に……! いやこれ以上の酷い目に遭わせてやるんだから……!」

「あっ!?!」

「アッ!?!」





「あー
あー」

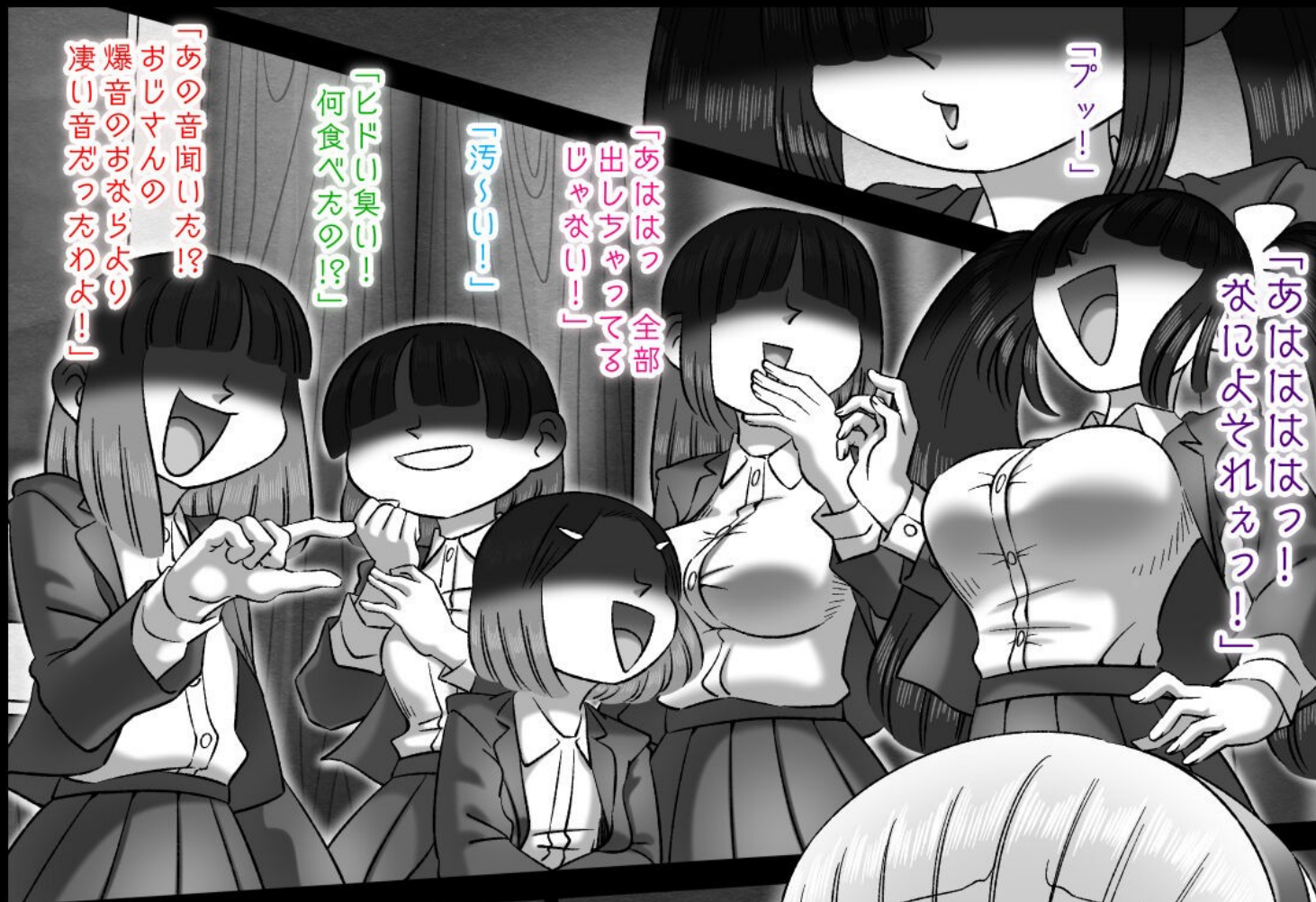
「やだ
やめて……」

「見ないで……」

「お願い……
見ないでえ……！」

「あー
あー
あー
あー
あー
あー」

ニヤ



「プツッ！」

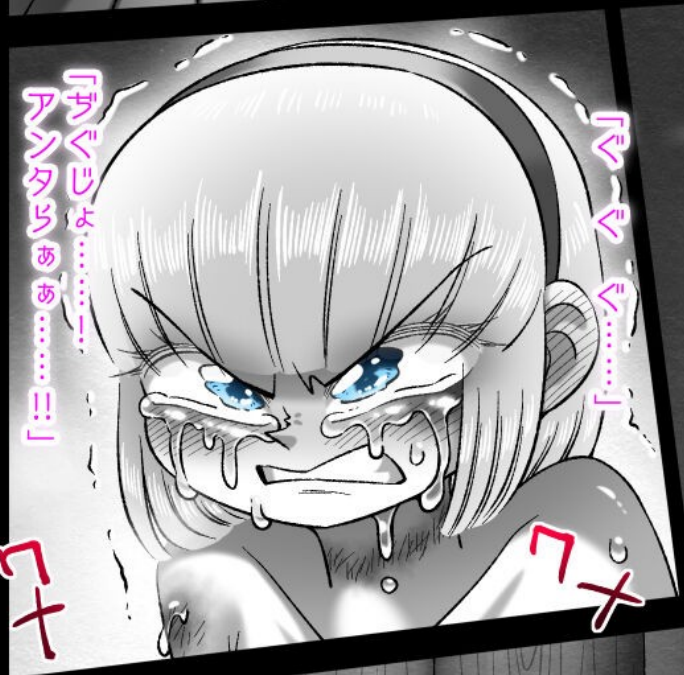
「あははははっ！
なによそれえっ！」

「あははっ 全部
出しちゃって
じゃない！」

「汚〜い！」

「ビドい臭い！
何食べたの!？」

「あの音聞いた!?
おじさんの
爆音のおならより
凄い音だっわめよ！」



「サグじよ……!!
アンタらああ……!!」

「ぐぐぐ……!!」

「……!!」



「ふざけんなあ!!」



どくどく

「ずっけんじゃねえ!!
あんな浣腸すれ方ど
漏らすに決まってるだろ!!
それを笑いやがってるエ!!」

「誰の為に
謝ってやってると
思ってるんだ!!」

「凡人風情が
調子に乗るん
じゃねえ!!」

「殺すぞ!!」

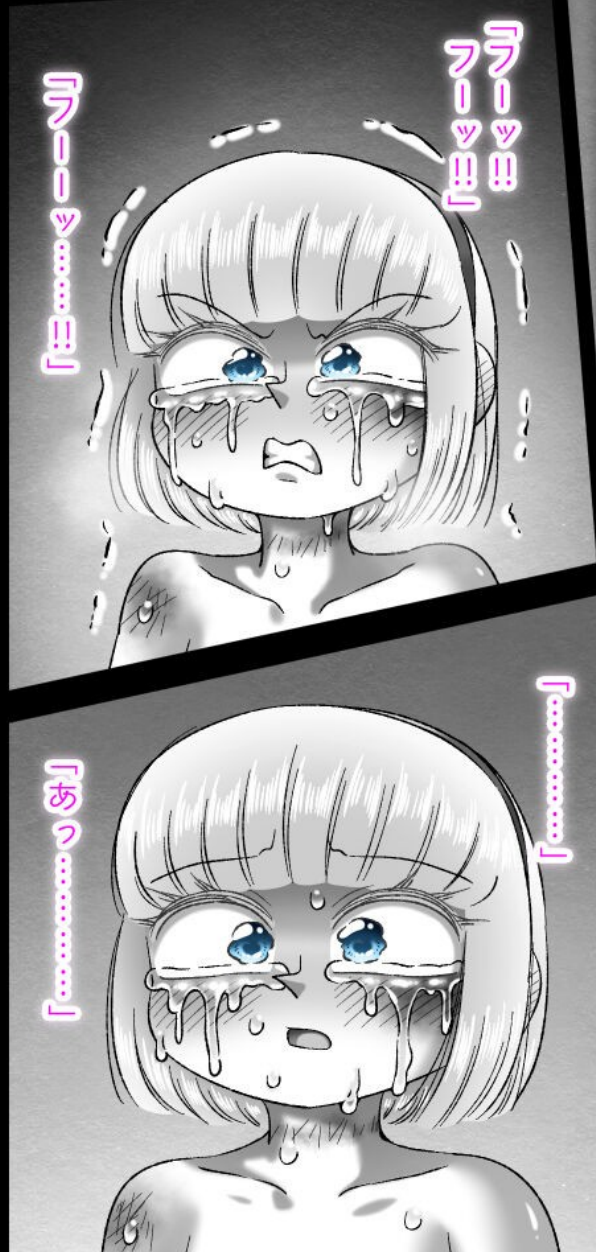


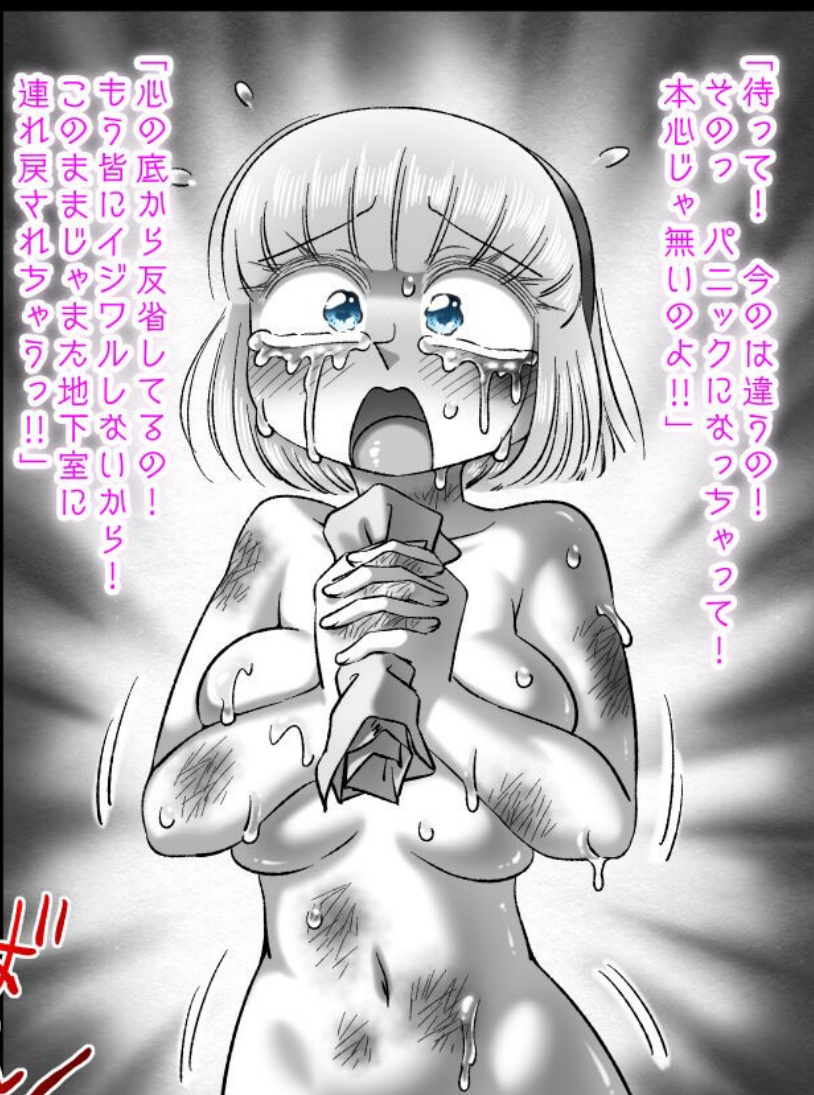
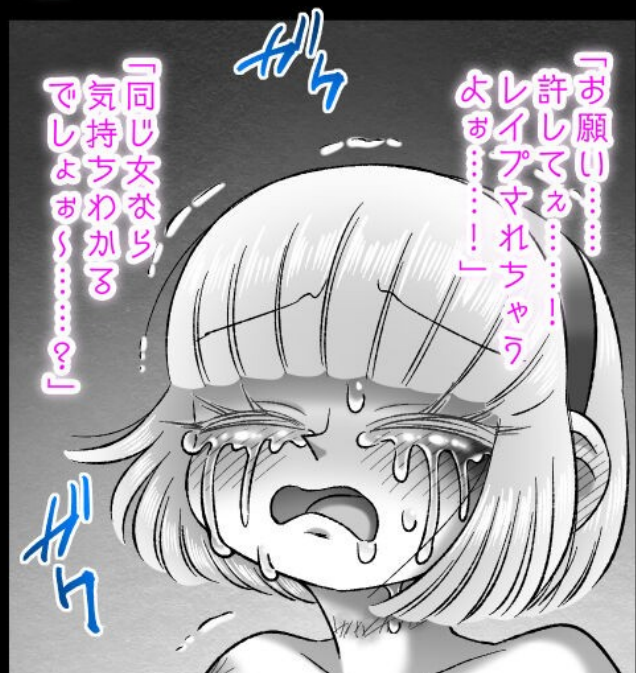
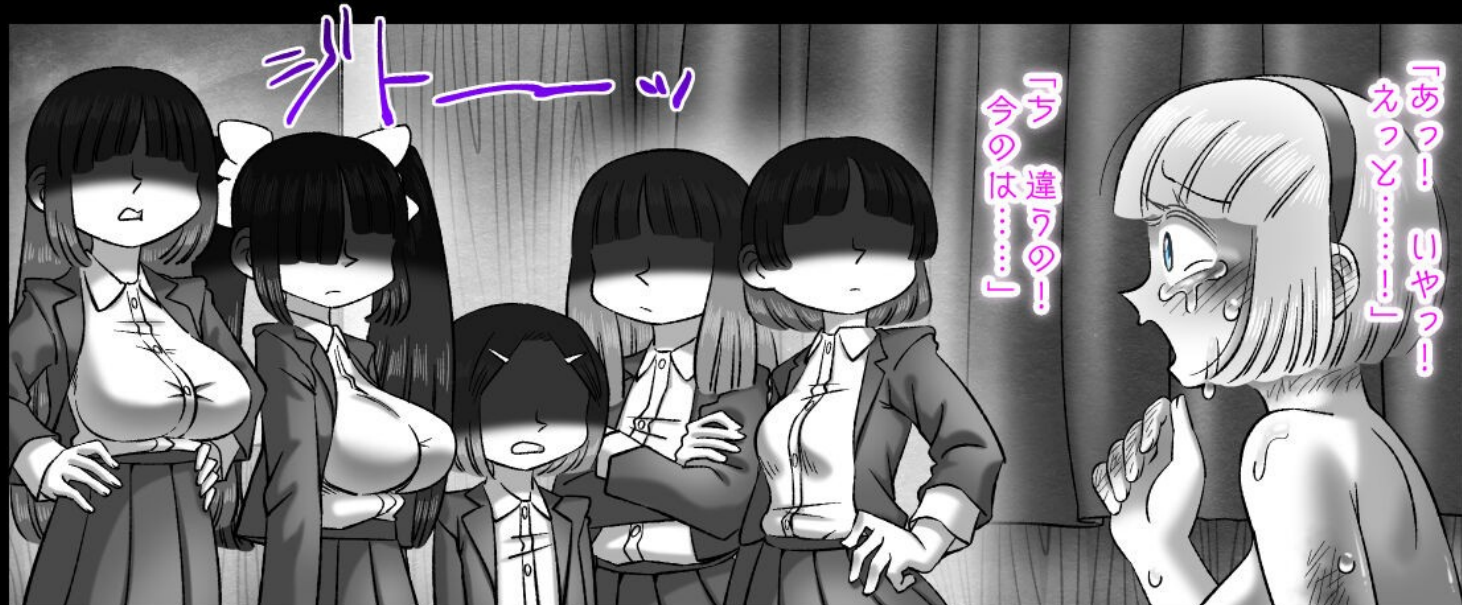
「フリーッ!!
フリーッ!!」

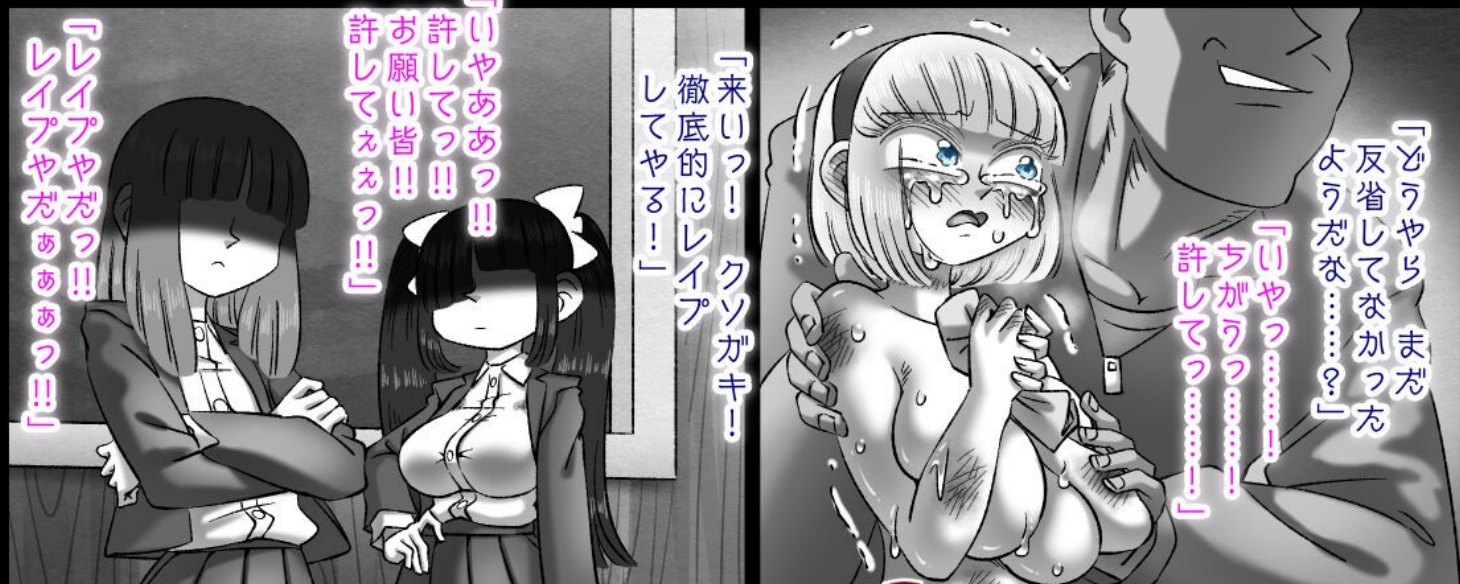
「フリーッ!!!」

「.....」

「あ.....」







「いやっ いやっ!
なからしう!!
いやらああ!!」

「れいふっ やらっ!
もおやらああ!!」

「やらやらっ!
やらあっ!
あかひやんっ
やらああ!!」

はん! はん!
はん! はん!
はん! はん!

「はひゅっ
はひゅっ
いやら...」

「もおやら...
ゆるちて...
レイプやら...
ごめんなしいい...」

ジュン!
ジュン!
ジュン!

ジュン!
ジュン!
ジュン!

「オラ!!
三発目の中出し
全部飲み込め!!」

ズボン

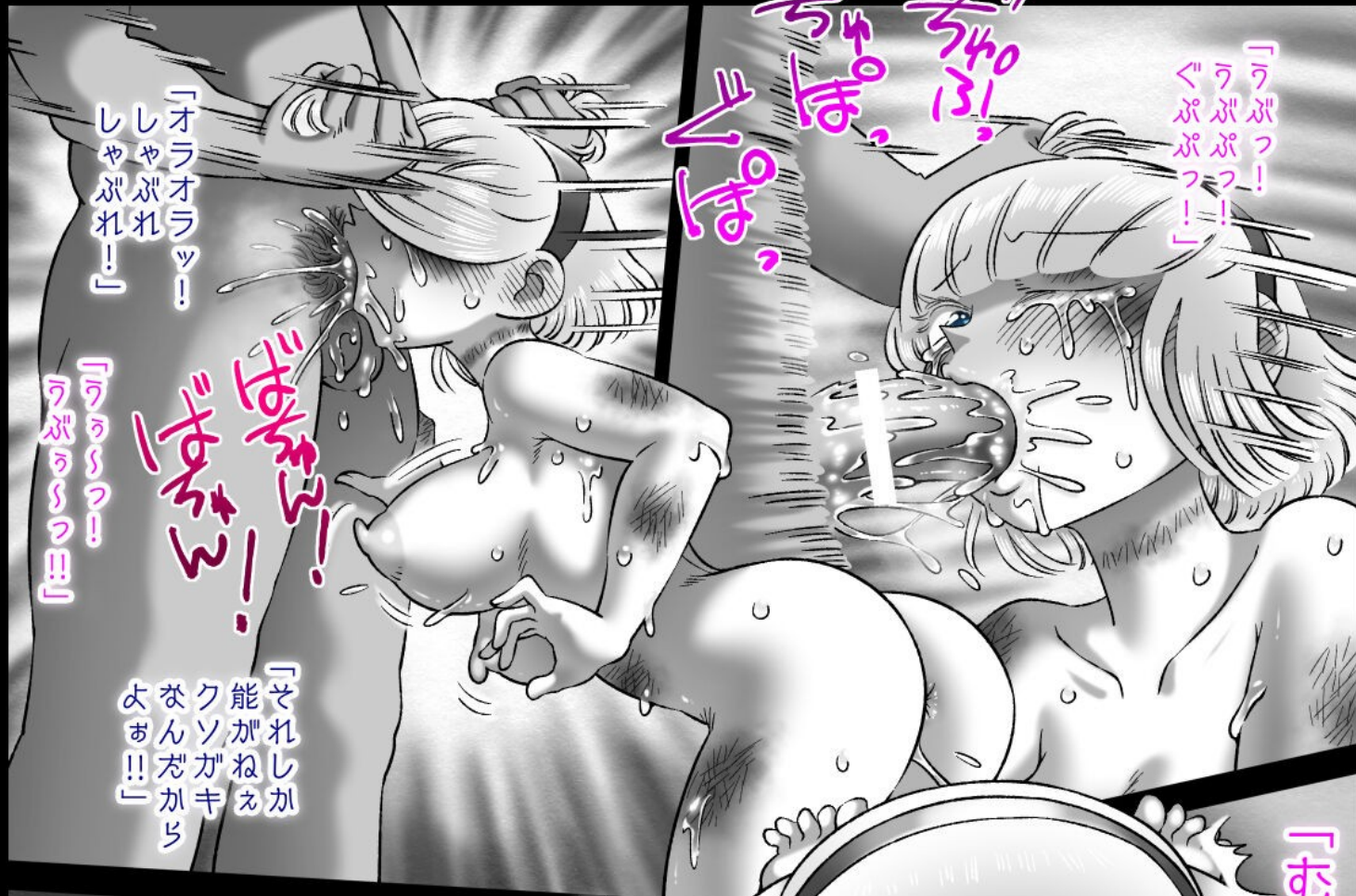
ビク
ビク

チュッ!

「ひざいい!!」

「ごめんで
済むかア!!」

ゴロ



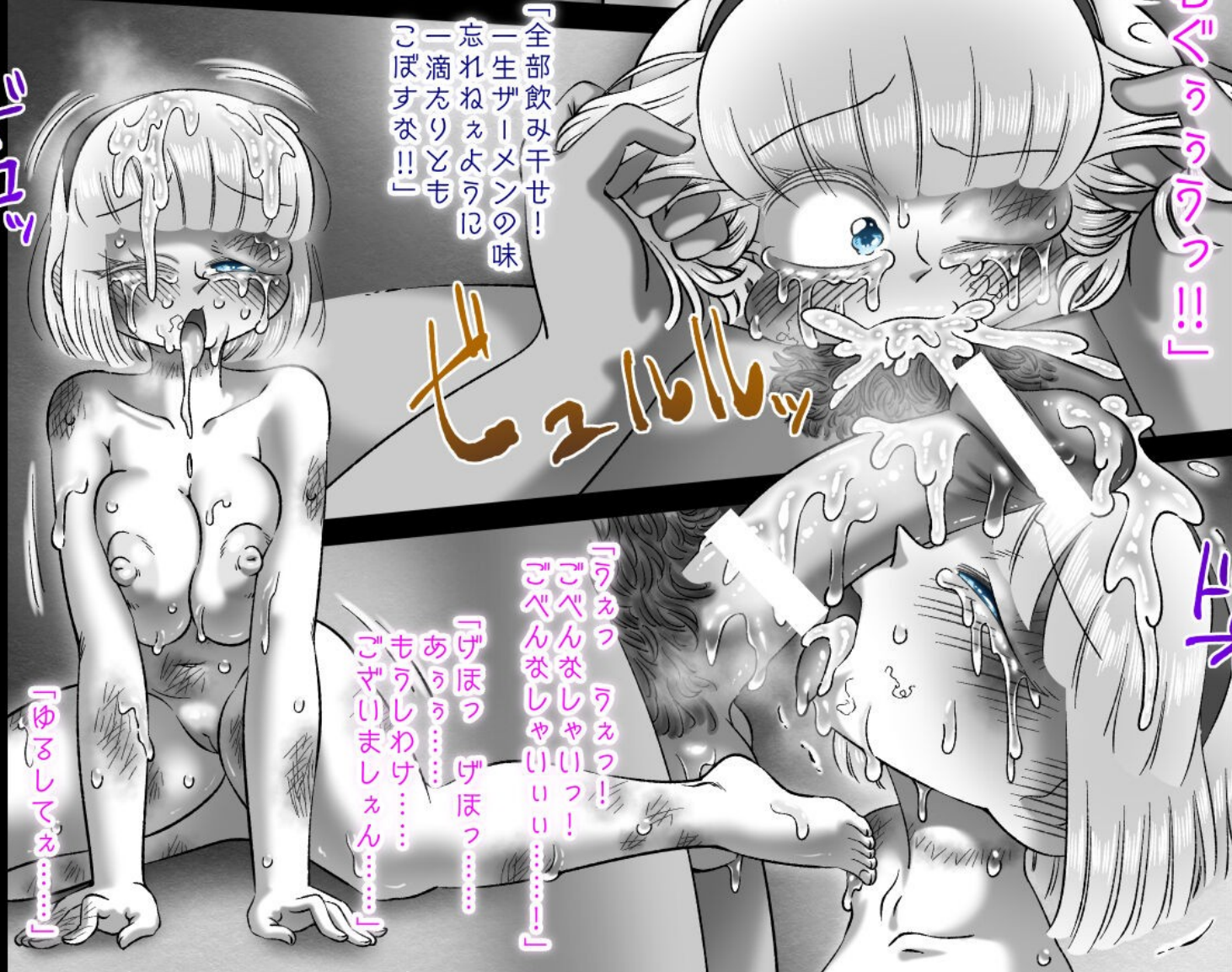
「オラオラッ！
しゃぶれ
しゃぶれ！」

「うううっ！
うぶうぶっ！！」

「ばちゃん！
ばちゃん！」

「それしか
能かねえ
クソガキ
なんだから
よお！！」

「うぶっ！
うぶっ！
うぶっ！
うぶっ！
うぶっ！」



「むぐうううっ！！」

「全部飲み干せ！
一生ザーメンの味
忘れねえように
一滴たりとも
こぼすな！！」

「うわっ うわっ！
ごべんなしやいっ！
ごべんなしやいっ！
ごべんなしやいっ！
ごべんなしやいっ！」

「げほっ げほっ
あうう……
もうしわけ……
ございません……」

「ゆるしてえ……」

「うわっ うわっ！」

「うわっ うわっ！」

「オラ！
レイプの時間だ！
股開きやがれ！」

「ぎゃああつ！
やだっ！ やだああつ！
レイプやだあああつ！！」

「ペンギンしゃんっ！
シャーリーの
ペンギンしゃんの
ぬいぐるみどこあつ！？」

「知りねえよ！！
ギンギンのペニスなり
ここにあるケドよあ！！」

「やだあああつ！！
レイプやなのおおあつ！！」



「クソガキ！！
クソガキ！！
犯されろ
クソガキ！！」

「んぐえっ！
おげえっ！
だじゅげええっ！！」

「赤ちゃん出来るだ？
もう出来てんだよ！！」

「うしよっ！
うしよっ！」

「よく見ろ！！
テメエはもう
妊娠してんだよ！！」



「ふーっ
ふーっ
あかちゃん
でさちやううう……」

「いやっ！
いやあああつ！！」

ゼクン!

「金髪美少女生オナホは
今日も気持ち良いゼエ!」

「うっ……
うぐっ……」

「もっと色っぽい声で
鳴けねえのか コラッ!!」

「んざいっ!!」

はぁん!!

はぁん!!

「は……
は……」

たっ、

はぁん!!

「だいが腹も
膨れて来たなァ!」

「赤ん坊に挨拶だ!
腰を振れ! 腰を!」

「はあっ はあっ
はいっ……!」

はぁん!!

はぁん!!

「ガキこすえち
子宮で精液
啜りやがれっ!!」

バハ
バハ
バハ

「んざひいひいひいっ!!」

ドン
ドン

アハハ

びりびり
びりびり
びりびり

「はーっ
はーっ……」

「や……
しゅっまん……
やだあ……」

ゼ
フラ
マッ

「そろそろ精神
ぶっ壊れるか？
まあ壊れたら
壊れたでレイプが
楽で助かるがな!」

ドン
ドン
ドン

「よかつた〜！
間に合っ 方みちい」

「うわ〜！
なんかすごい
生臭いね〜
羊水の臭い？」

「うっ うっ……
うぐっ……
産まれる……
産まれるう……」

「苦しいよ……
だ だれか……
助けてえ……」

ぴゅっ

ぴゅっ

出産予定日
3/10

レイプ無
オナホ女

「生肉女
頑張れ！
即受胎
オナホ女
性癖
似合ふ
元氣な女
産むわ〜」

「ごめんねシャーリー
私達じゃどうする事も
出来ないのよ」

「せめて ここで
見守ってあげるから
安心して産んでね！」

「うっ うぐっ……
はあ……
はあ……」

産まれた……
シャリーと
先生の
赤ちゃん……」

「レイプで
孕まされた
赤ちゃんが
本当に
出てきた……」

は は は
 し し し
 し し し
 つ つ つ
 ……
 ……

「う
れひ
あか
ひ
やん
ま」

佳性
頭張九！
即愛精
才千派它
姓婦海
取合，may
元家花心
蘇九和

あ、ま、

「良い物見せて貰ったわシャーリー」

「他の皆にも可愛い赤ちゃんを見せびらかせてあげなきゃね」

「アンタはそこでゆっくり休んでなさいな」

「ま……待って……赤ちゃん……アタシの赤ちゃん……」

「連れてかないで……アタシの赤ちゃんなのよ……」

ずん

「まさかアンタ育てるつもり？ダメダメ！」

「アンタみたいなのがクズが育てたら赤ちゃんの性格が歪むわ！」

「うそ……いや……待って……」

「この子は皆で優しい子に育ててあげる」

「お願い……赤ちゃんを連れてかないでえ……」

「そんなに赤ちゃんが欲しいならまろ先生に孕ませてもらっちゃろ？」

「じゃあねシャーリー元気でレイプされ続けてね」

終



碧い高慢と悲鳴 終

著者 切傷甲
販売開始 2024年2月



■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

■SNS

<https://twitter.com/kirikizu1>

■ご意見・ご感想など

https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post



碧い高慢と悲鳴

作 切傷甲

「え？ もうお金
払えない？」

「あっそ！
じゃあ 明日から
アンタもイジメの
対象だからね！」

「うわあ！
ひどい
点数！」
「アタシだって
恥ずかしく
生きていけ
ない！」

「頭悪い人って
羞恥心も無いの？」

「聞いたわよ
アンタの両親
略奪婚らしい
じゃない？」

「人の物を欲しが
る卑しい血が流
れているのね
おこね！」

「プッ！
チッマ！」

「そんな足の
短さでよく
アイドルなんて
出来るわねえ」

「やだやだ……
レベルの低い
奴らばっか！」

「もう少し
アタシを見習
って欲しいわ！」

「お前たち
どうしたんだ？」

「先生！
私達もう
耐えられません！」

「シャーリーの
ワガママに皆
苦しんでるんです！」

「もうこんな
学校生活
耐えられない！」

「なるほど……
そいつは大変そうだが
先生がなんとか
してやろう……
ククク……！」

準備室

「おい
シャーロット！
お前ちょつと
やりすぎだぞ！」

「もつと皆と
仲良くしようよ
思わないのか！？」

「はあ……？」

「聞いたぞ
お前が友達に
いやがらせばかり
しててっつな」

「そんな事して
心が傷ま
ないのか？」

「……………」

「友達？ 誰が!?
アイツらは動物よ!」

「下等な連中を
畜生扱いして
何が悪いって
言うのよ!」

「何だこゝろ!？」

「!!」

「成る程な……
それがお前の理論か」

「自分より劣った
人間は畜生扱いして
良いんだな?」

「なっ ちよっ……!」

「は 離しなさいよ
ゴミクズ!!」

「そ せうよ!
クズはクズ扱い
されるべきなのよ!
アンタも一緒よ!」

「うるせえんだよ!!」

「!？」

「きゃああああっ!!」

ビッパッパッ!

「オラァ!!
クソガキがあ!!」

「うざやつ!!」

バ
ン

「な 殴った……!?
このアタシを……!?」

「ゆ 許さない!!
お父様に
言い付けて
やるんだから!!」

「クス風情が
このアタシに手を
上げた事を死ぬ程
後悔してもしらうわ!!」

「何を偉そうに
ほざいてやがんだ
パイオツ丸出しにして
言う台詞じゃねえだろが!!」

「えっ ばい……?
あ ああつ!!」

はかん

「きやあああつ!!
見るなあああつ!!」

「なんだ
自分から見せてたんじゃ
無かつたのか ククク」

「エロい巨乳見たり
こんなになっちまっただよ」

「ひっ！
ひいっ！」

「どうにかしてくれよ
シャーロットちゃん
よお〜！！」

「いやあああつ！！
触るなあああ！！」

「すい！」

「おきやう」

「もみい！」

「何でダメなんだ？
劣った人間には
どんな扱いしても
良いんだろ？」

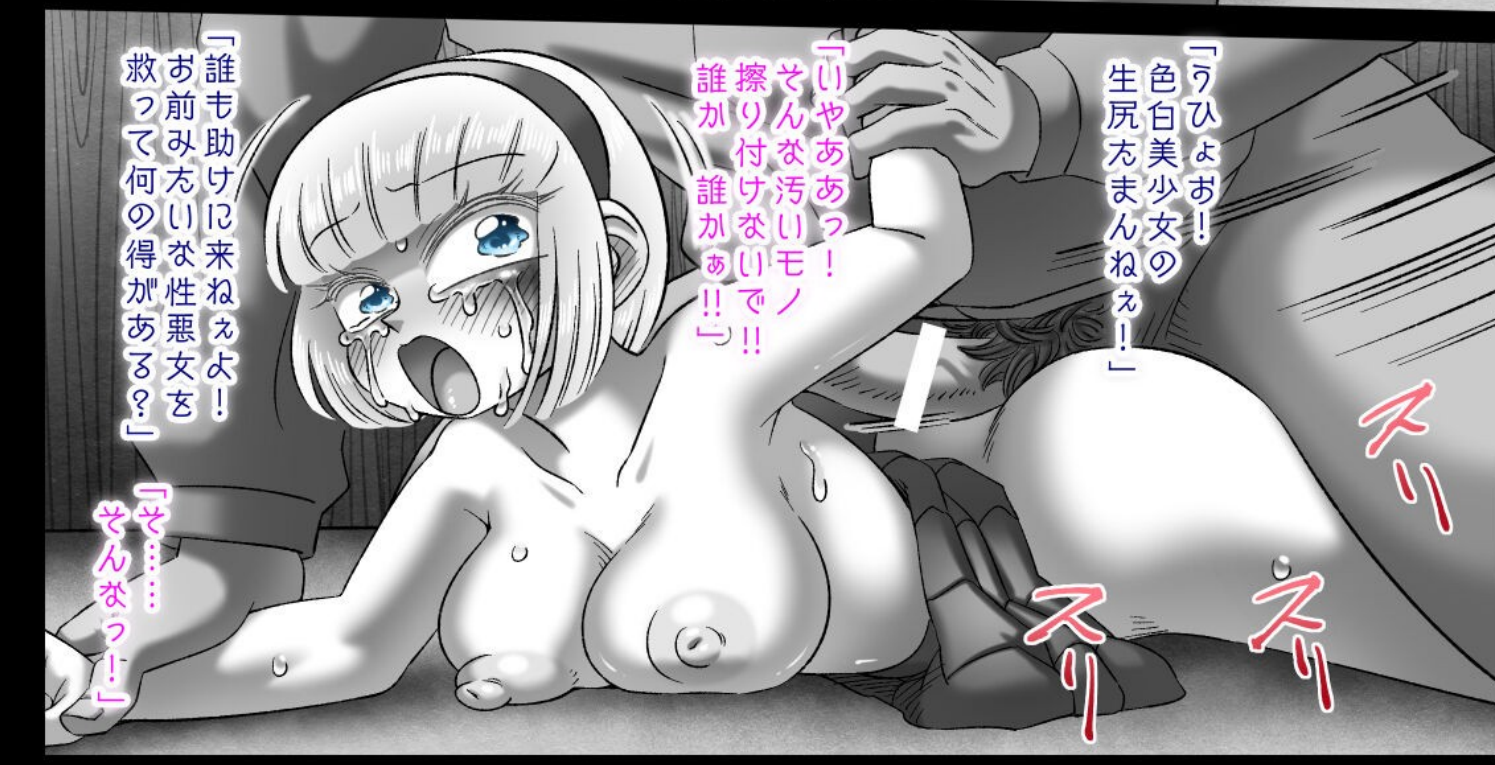
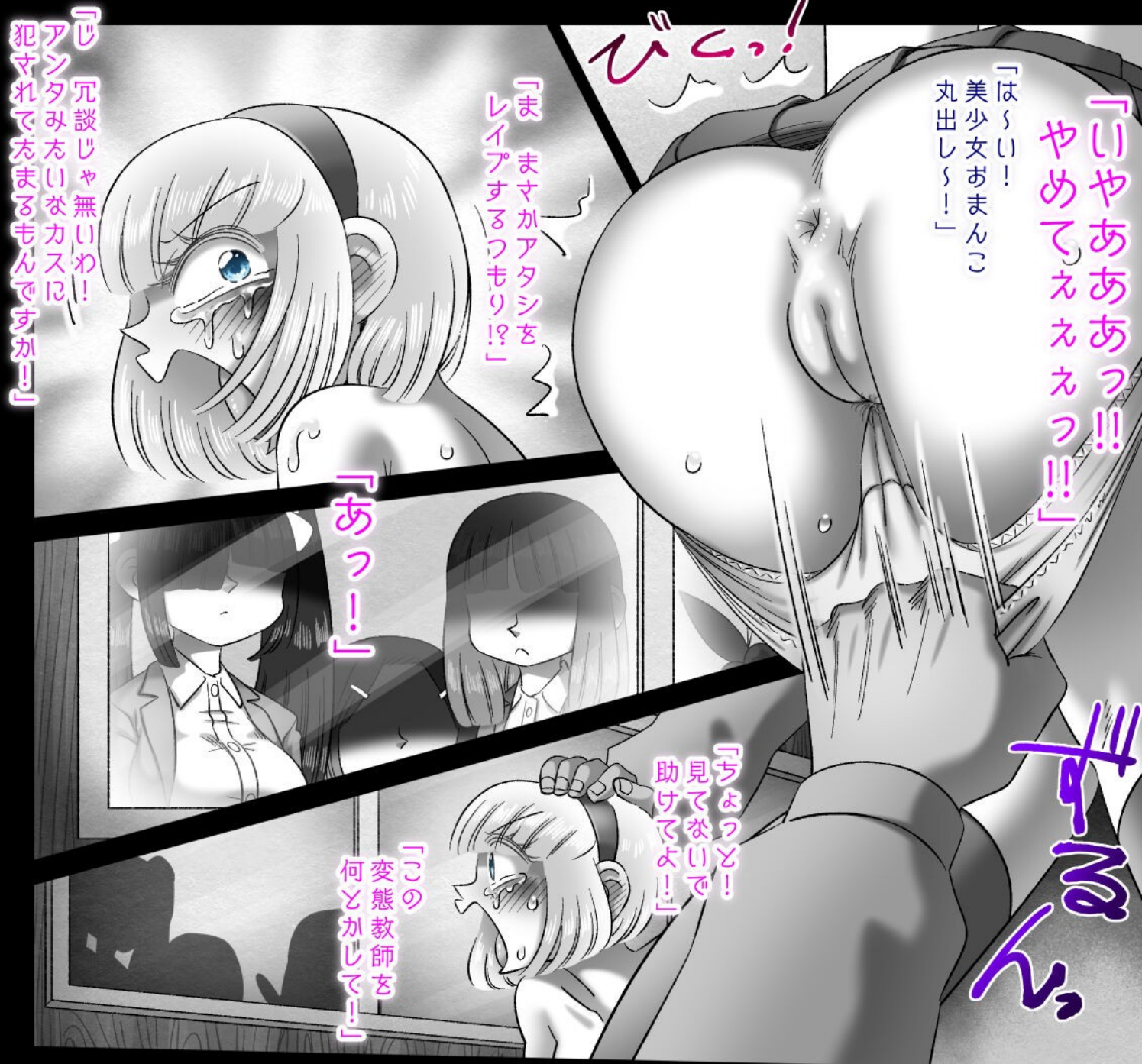
「ふふやけないで！！
劣ってるのはアンタの
方でしょうが！！」

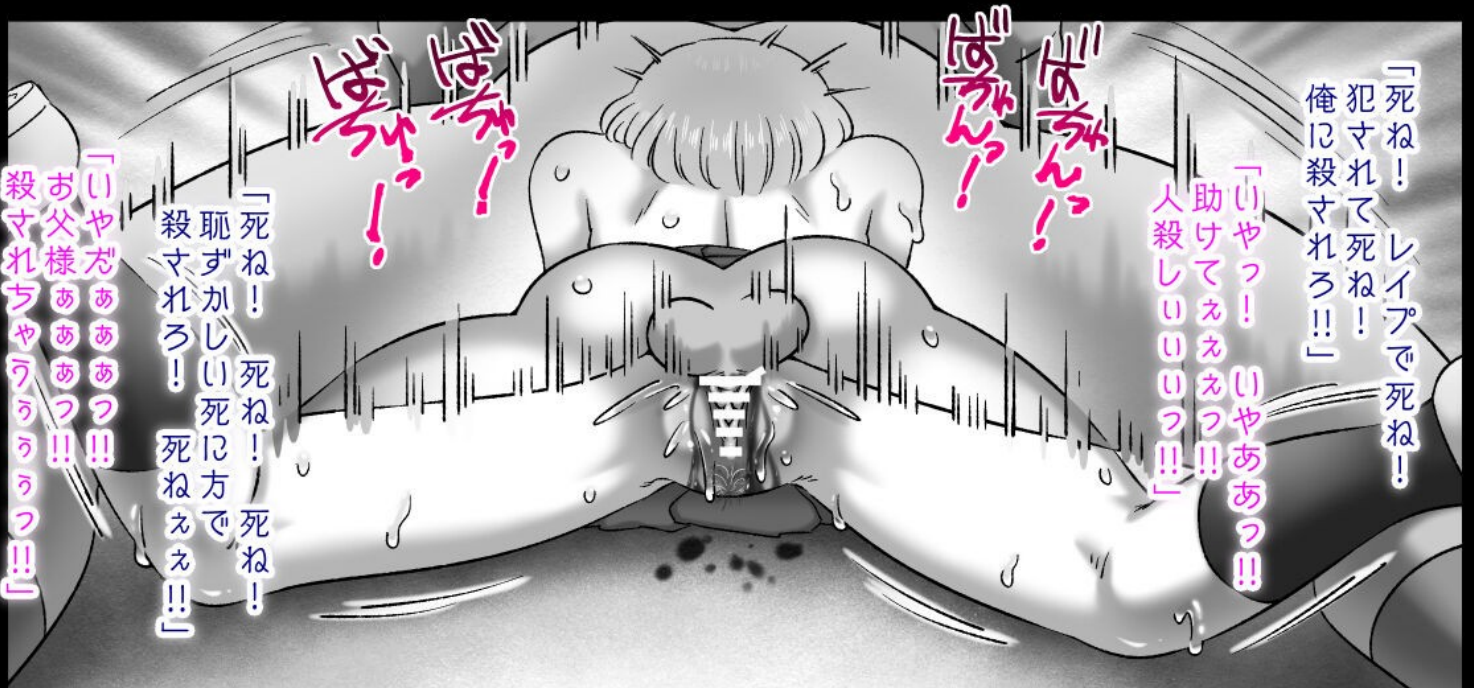
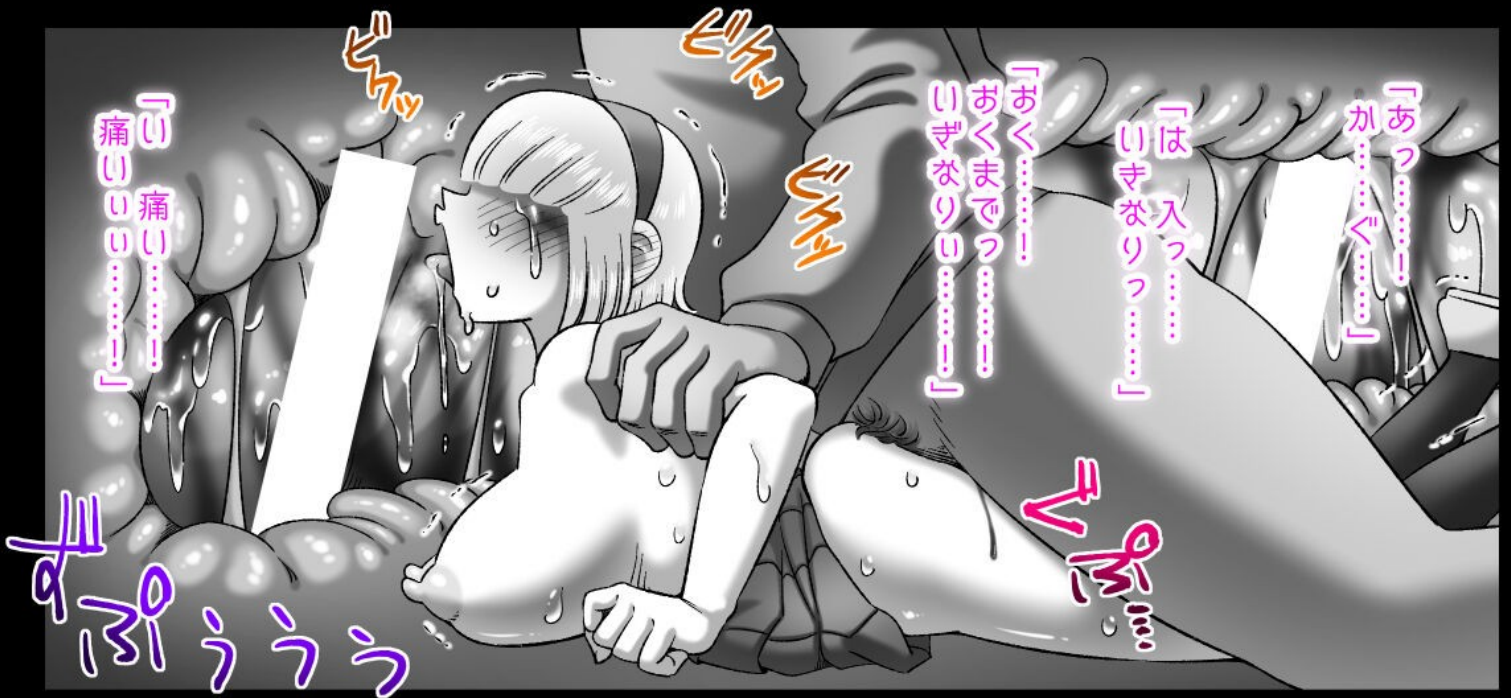
「ズいっ」

「俺が劣ってる？
なり今すぐ俺に
勝ってみろよ」

「弱っちい女じゃ
無いって事を
俺を跳ねのけて
証明してみろや」

「あっくつ ふやけ……！！
アタシは何するつもりよ！！
離して！！下着ずらすな！！
本当に人生終わらすわよ！！」





「殺してやる……！
本当に殺す……！」

「ひっ！！ いやっ！！
殺さないでっ！！
お願いっ！！」

「マジでこの
クソ弱っつい
クソガキ
ぶっ殺したく
なって来たぜ！！」

「殺しながら犯す！
犯しながら殺す！」

「ざっ！！
うざひいっ！！」

「お前が死んでも
誰も悲しまねえ！！
なら殺して良いよなあ！？」

「ぐっ ぐるじっ……！
やめでっ……！！
ごろざないでえ……！！」

「ぐえっ……ぐえっ……！
ゆる……じでええ……！」

ばん？！
ばん？！
ばん？！
ばん？！
ばん？！

どばっ！！
どばっ！！
どばっ！！
どばっ！！
どばっ！！

ギョッ
ギョッ
ギョッ

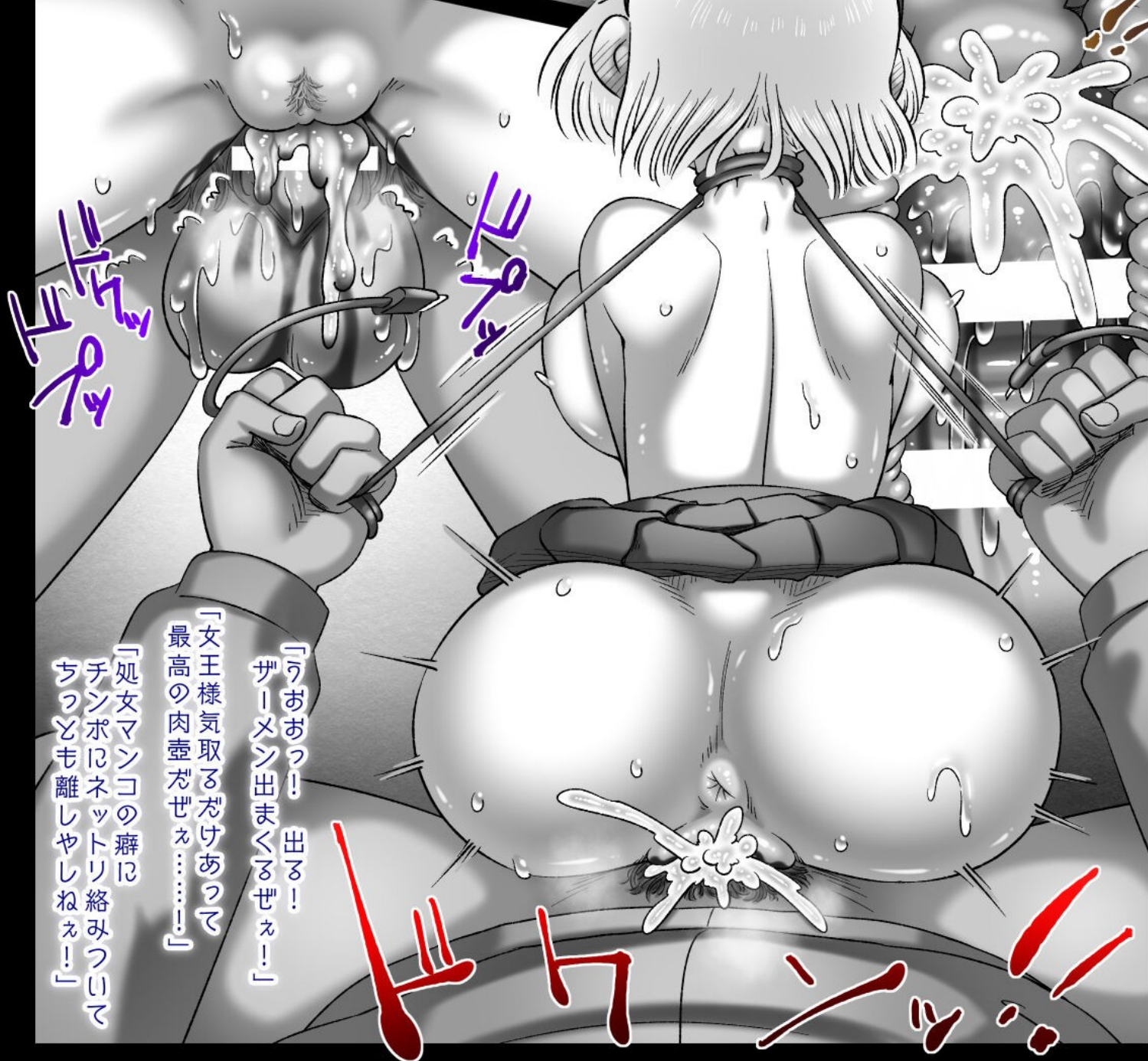
ひっ
ひっ
ひっ

ズビュルズビュル

「殺されながら
孕みやがれ!!
シャーロットオオオ!!」

「うぐげええええっ!!」

「げっ……!!
うげ……!!
うげええ……!!」



「女王様気取るだけあつて
最高の肉壺だぜえ……!!」

「処女マンコの癖に
チンポにネットリ絡みついて
ちっとも離しやしねえ!!」

「うおおっ! 出る!
ザーメン出まくるぜえ!!」

ドンッ

「中出し止まらねえ！
こんだけ出りゃ
確実に孕んだな！」

「かはっ……！
げっ……げえ……！」

「初セックスがレイプで
おまけに孕まされるって
どんな気分だ？ え？」

ギリ

ギリ

ギリ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

「おつとすまねえ
力入れ過ぎちまった」

「まだ殺すワケには
いかねえよな？」

スルリ

「げほっ……！
げほっ……！」

ビュッ

「別にここで
殺しちゃっても
構わねえんだが
後片付けが
面倒だからな」

「それに もっと
楽しませて
もらいたいよあ」

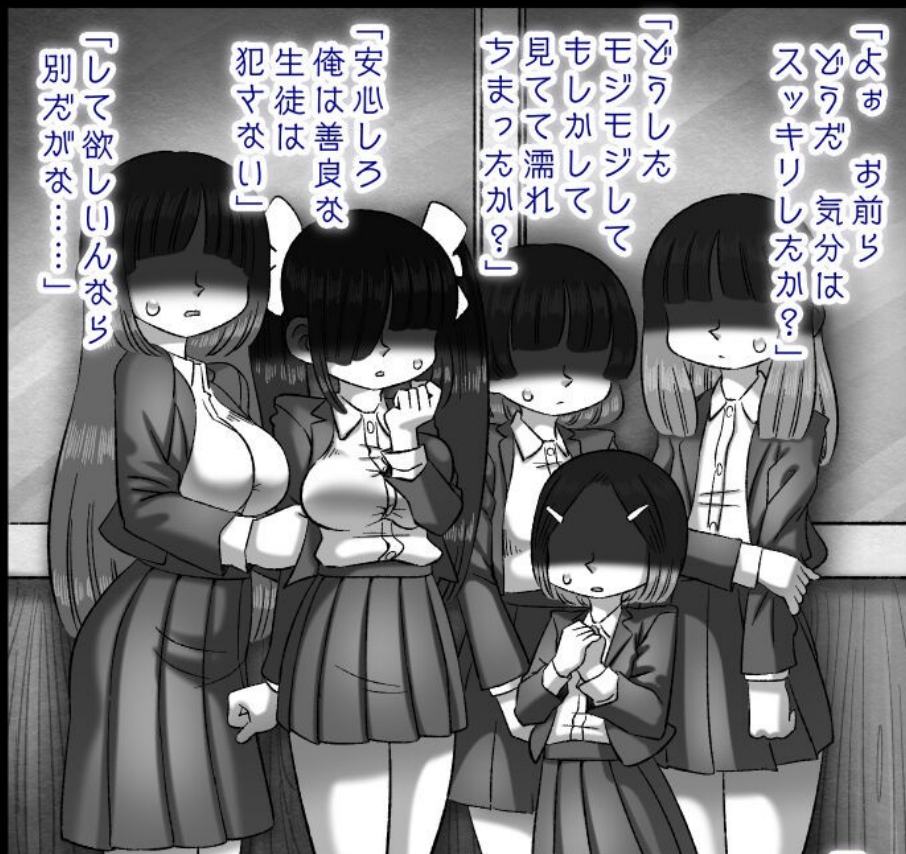
「たっぷり
犯してやるぜ
シャーリーちゃん！」

グッ



「お前らは善良で従順な生徒だよな？」

「俺の言ってる事理解出来るよな？」



「よぉ お前らどうだ 気分はスッキリしたか？」

「どうしてモジモジしてもしかして見てて濡れちまったか？」

「安心しろ俺は善良な生徒は犯さない」

「して欲しいんなら別だがな……」



「ククク……」

「コイツも早く善良で従順な生徒にしてやらないとな」

「それで良いこれくらいしばらくシャーロットは俺が預かる」

「……は はい！この事は誰にも言いません……」

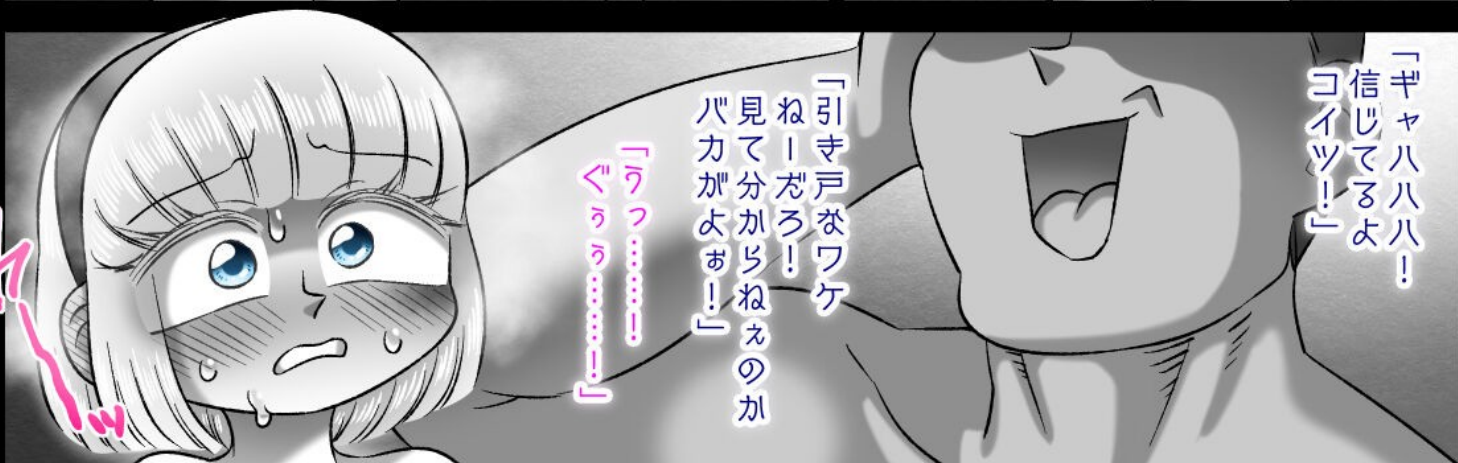
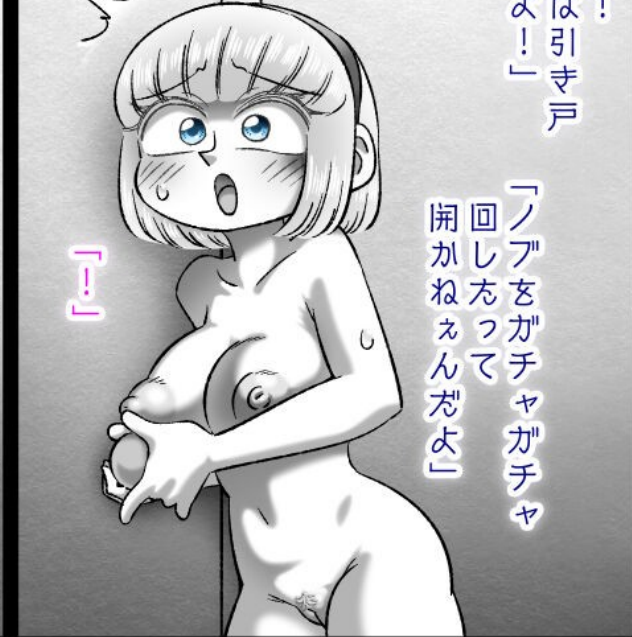
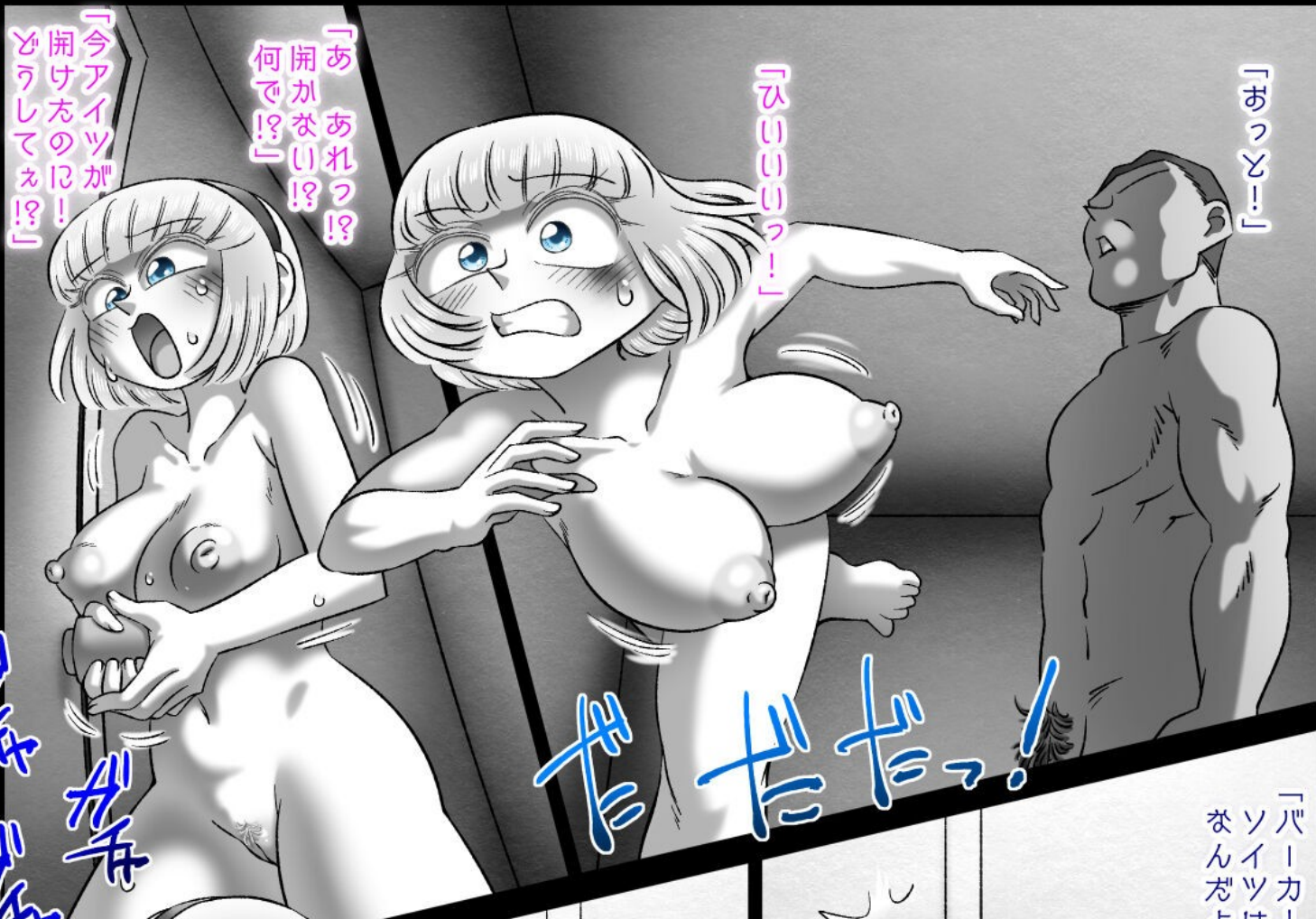


「なんだまだ寝てるのか？ぐうたらな女だ……」



「シャーロット……」

ガキ



「そんな簡単に
この地下室から
逃がすと
思ってたのか？」

「いや……」

「お前には
ちっぷりと
オシオキ
してやる」

「来ないで……」

「人を蔑む権利なんて
自分には無いって事を
その身体で理解させてやる」

「ううう……」

「やだ……
やだあ……」

「アイ
アイ
ブル」

「おっ おねっ
お願いっ……！
犯さないで……！」

「ガッ
ガッ」

「あ 謝るっ！
謝るからっ！
だからっ！
レイプしないでっ！」

「安心しろ……
俺はレイプなんか
しない……」

「えっ……？」

「俺はな……」

「お前を
ぶん殴りに
来ちんだよ」

「……あ」

「あ……
いや……
いやあ……」

「よし
じゃあまずは
渾身の一撃を
腹にお見舞いするか」

「や
やだっ！
やめてっ……！」

「アタシっ 酷い事しただ
暴力だけは振るって無い！」

「いやっ！ 来ないでっ！
暴力は止めてっ！
お願いだからっ！」

「うげっ！
ぐげっ！
おげえええっ！！」

「言い訳すんじゃない
クソがキイ！！」

「大人しく殴られろ
雑魚メスがああ！！」

ドス！
ドス！
ドス！！

「泣けば許されると
思ってたのかコラ!」

「ぎゃふっ!! うぎゃひっ!!
やめっ やめでええっ!!」

「なら思う存分鳴け!
ガマガエルみてえにやあ!」

「げっ げえっ
げばうっ!!」

ゴス!
ゴス!
ゴッ!

「オラッ!
好きならだけ
吐いて来いや!!」

「げぼっ!!」

「げえええっ!
おげえええっ!!」

「げぼぼぼっ!
げろろろっ!!」

グッ!

ぴゅあぁぁ



「どうする？
このままぶん殴られ
続けるかレイプか」

「好きな方
選ばせて
やるよ」

「あ……あ……
やだあ……」

ぱん

ぱん

「あうっ あうっ……
レイプ……レイプで
お願いします……」

「だから もお
殴らないでえ……」



「よし じゃあレイプだ
これはお前が選んだんだ
お前が望んだ事なんだぜ？」

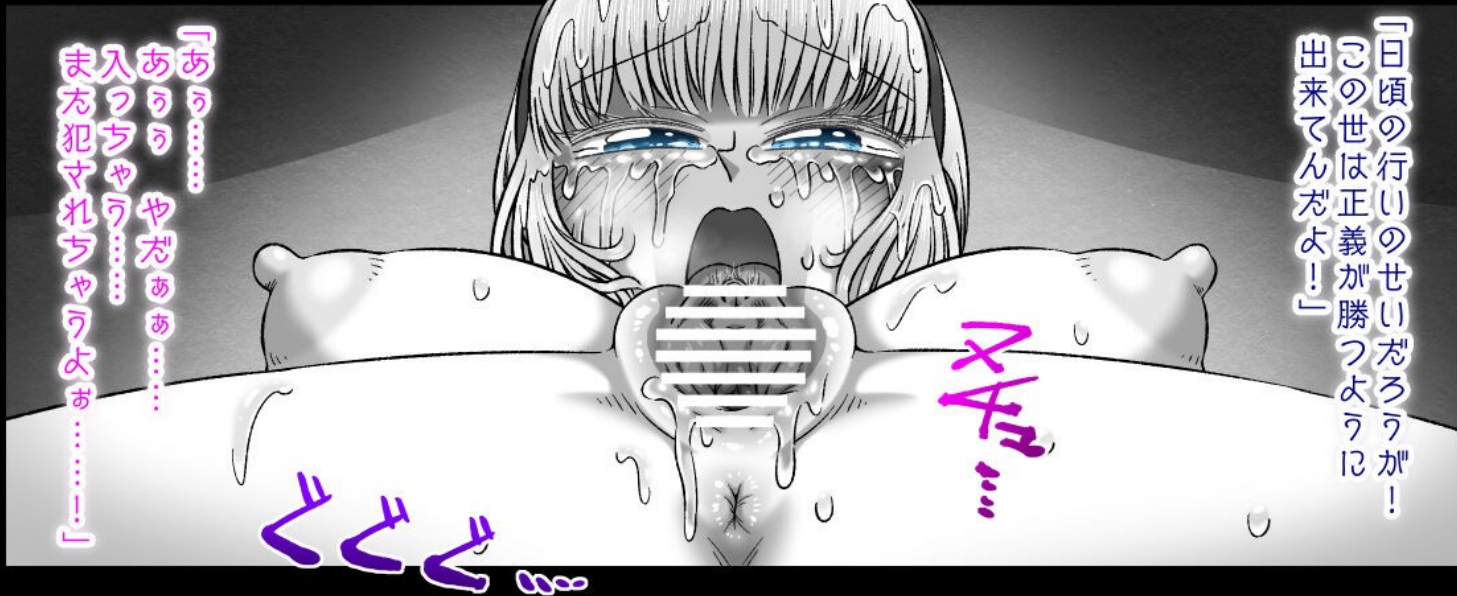
「自分から
犯されたがるなんて
とんでもねえオサセな
女だな！」

「やだ……
なんで……
どうしてこんな事に
なっちゃったの？」

ぐい

ぐい

「このアタシが……
こんな変態に……」



「日頃の行いのせいだろうが！
この世は正義が勝つように
出来てんだよ！」

ぐぐぐ

ぐぐぐ

「あう……
あうっ やだあ……
入っちゃう……
また犯されちゃうよ……！」

ズン！！

「オラッ！
奥まで一気に
入ったぞ！」

「今度はじっくりと
楽しませてもらうぜえ！」

「金髪美少女の
ツバ舐めませうや！」

ズンッ
ズンッ
ズンッ

「ううっ ううっ！
んむうううっ！
やめへええ……！」

「ぶはっ！
あああっ！
やだあああっ！
ファーストキス
なのがいいっ！」

ぬん
はは
はは
はは

「イチイチ逆らうんじゃねえ！
またぶん殴られてえのかコラ！」

「ひっ！
いいいやっ……！
ごめんなしゃいっ！」

「女らしいエロ声上げて
犯されてりゃ良いんだよ！」

「うう ううう……！
ぐすっ ぐすっ……！
何で…… 何でえ……！」

はは
はは
はは

「ああっ やだっ いやっ!
終わって! 早く終わってえっ!」

「そんなに中出しが
待ちきれねえのか?
そんなりちっぷりと
注いでやるよ!!」

「オラッ! オラッ!
孕めえええっ!!」

「いやあああああっ!!」

ばーちゅん!!

びゅびゅ!!

ばーちゅん

ばーちゅん

ばーちゅん

ばーちゅん

ばーちゅん

どく!!

「あ
あっ! 汚
いっ! 汚
いっ! 汚
いっ!!」

「その汚えモンで
テメエは妊娠
するんだよ!!」

「いやだあああっ!!」

びゅるるる!!



「ラッ
フーッ」

「身体だけは
本当に
イイ女
だぜ……」

ビクッ

ビクッ



「あうう……」

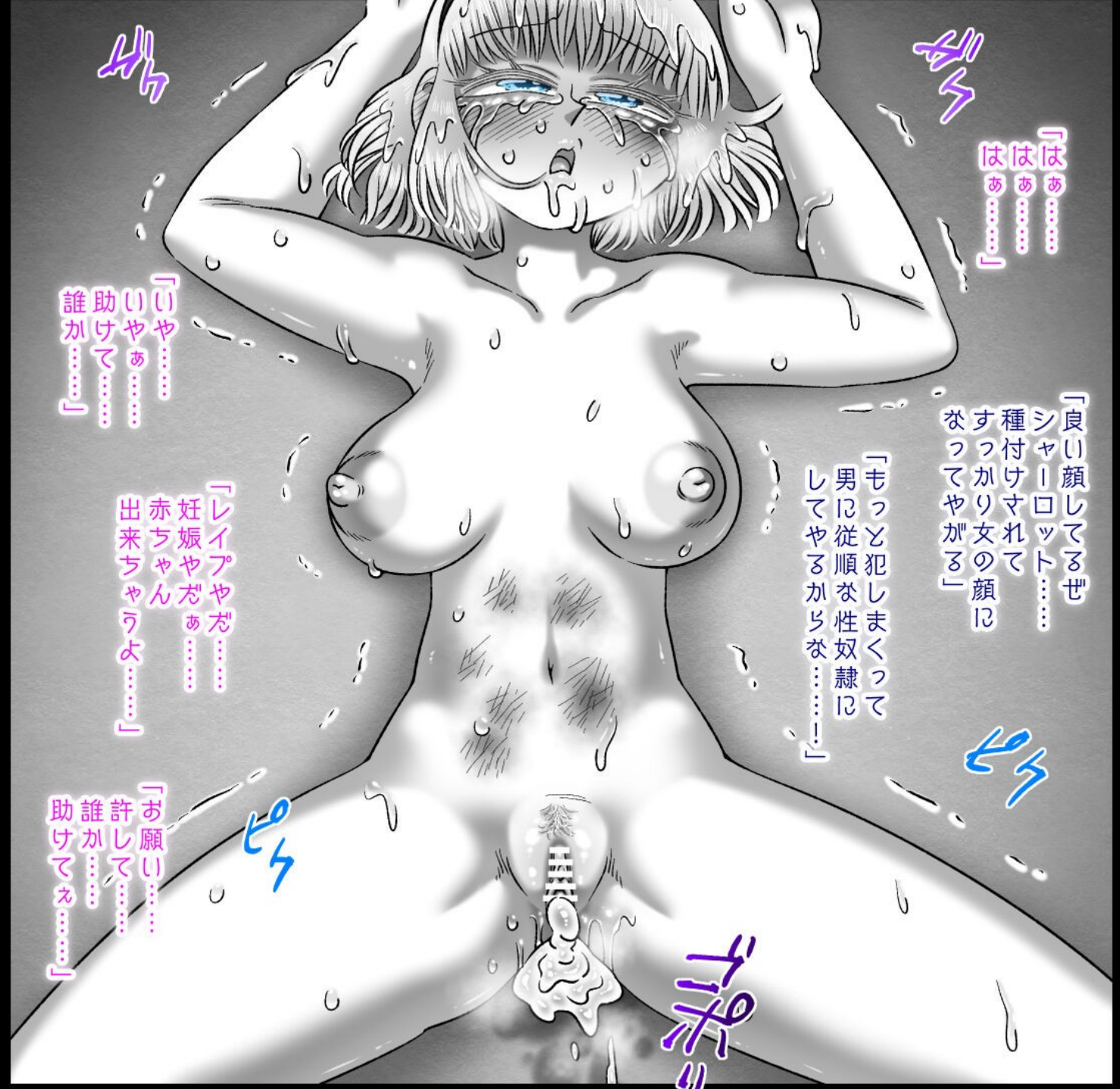
「ぐすっ
ぐすっ……」

ずる
ずる



「うう……」

いん



「はあ……
はあ……
はあ……」

「良い顔してるぜ
シャーロット……
種付けされて
すっかり女の顔に
なってるやがる」

「もっと犯しまくって
男に従順な性奴隷に
してやるからな……」

「レイプやだ
妊娠やだあ……
赤ちゃん
出来ちゃうよ……」

「いや……
いやあ……
助けて……
誰か……」

「お願い……
許して……
誰か……
助けてえ……」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「シャーリーが
消えてから
二週間……」

「まだ彼女は
先生に犯されて
いるのかしら……」

「やっぱりアレは
やりすぎ
なんじゃ……」

「まさか先生が
シャーリーを
レイプする
だなんて……」

「嫌な事はかり
言われたけど
そこまでする程
じゃ無い……」

「いくら何でも
可哀想……」

「あんなやり方
間違ってるんだ」

「今からでも
先生にやめて
もらうべき？」

「大事になる前に
止めないと……」

「平気！
平気！」

「気にすんなって！」

「そうよ！
ほつとけば
良いのよ！」

「元はと言えばあの子が
悪いんじゃない！
自業自得よ！」

「そ……
そうよね……」

「う……
うん……」

「私達は
悪く無い……」

「……だよね
友達はまだ
お前を許して
無いらしいぜ」

「……」

「哀れだな……
学校の秘密の地下室で
犯され続けて……」

ぐた、……

「必死に助けを求めて
叫び続けた結果が
コレだなんて……」

「……」

「全く哀れで
笑えて来るぜ」

ぽろ

ぽろ

ズルル

「グク……
すっかり従順に
なっただけ……」

「……」

ぽろ

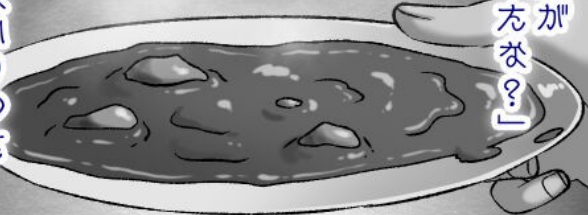
ぽろ

ぐろ

モミ

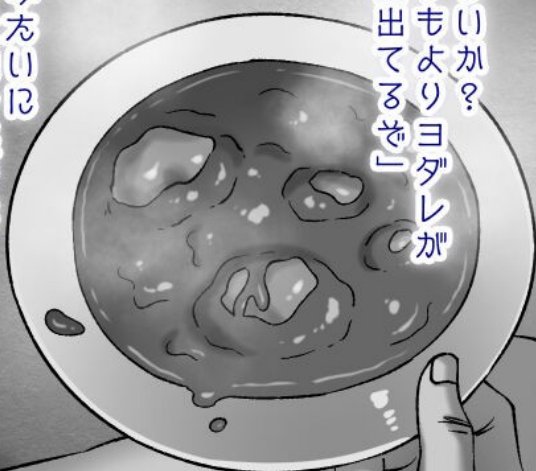
モミ

「温めたりばかりのを
用意してやっただけ」



「欲しいか？
いつもよりヨダレが
沢山出てるぞ」

「犬みたいに
食い意地の張った
卑しい女だ……」



「ククク……」

安心しろ
おしゃぶりが上手に出来たら
ちゃんと食わせてやる……」

「ふふ
うう
つつ
……」

「そうだ
そうやってしつかり
隅々まで舐め回せ」

「卑しい女の口で
ペニスに奉仕しろ」

「んんん
ぷぷぷ
っっっ」

じゅんぽう、じゅんぽう、じゅんぽう、じゅんぽう、

「よし 出すぞっ!
その生意気な面に
ぶっかけませろ!」

びしょびしょ!!

「あああ……」

ドロ……

「しっかり飲み込め
今のお前には精液も
立派な栄養だからな」

「……………」

いっいっ

ゴクッ

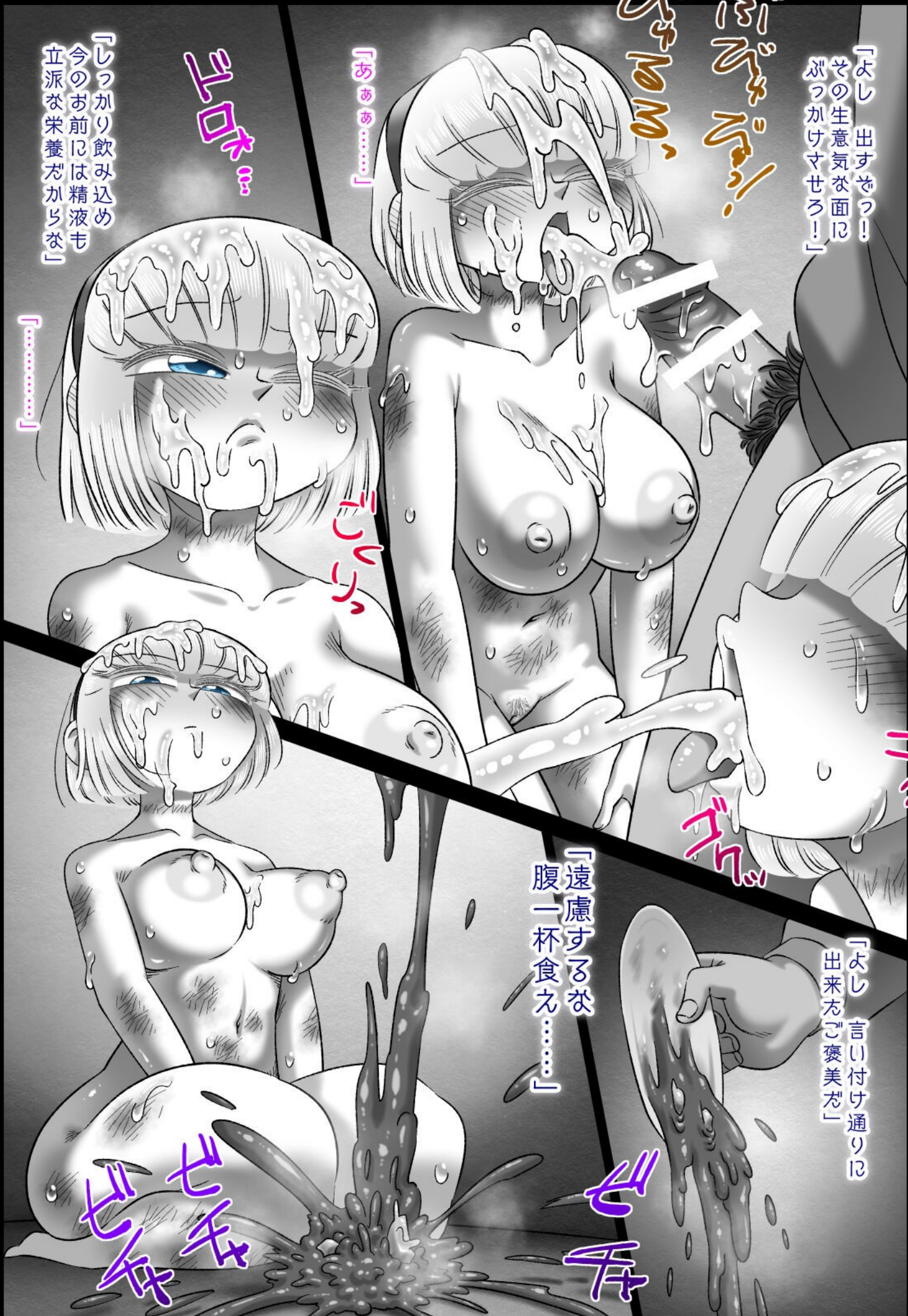
グハッ

「遠慮するな
腹一杯食え……」

「よし 言い付け通りに
出来たご褒美だ」

ゼッ
ゼッ

ゼッ
ゼッ



「卑しい私に
お恵みくだまり
ありがとうございます」

「全て残らず
味わねせて
頂きます……」

「クク……
くっくく……
クヒヒヒ……」

「なんて無様な
姿だ……」

「これがあの
威張り散らしていた
シャーロットとはねえ」

「ま 畜生以下の
下劣なバカ女には
お似合いの姿だよ」

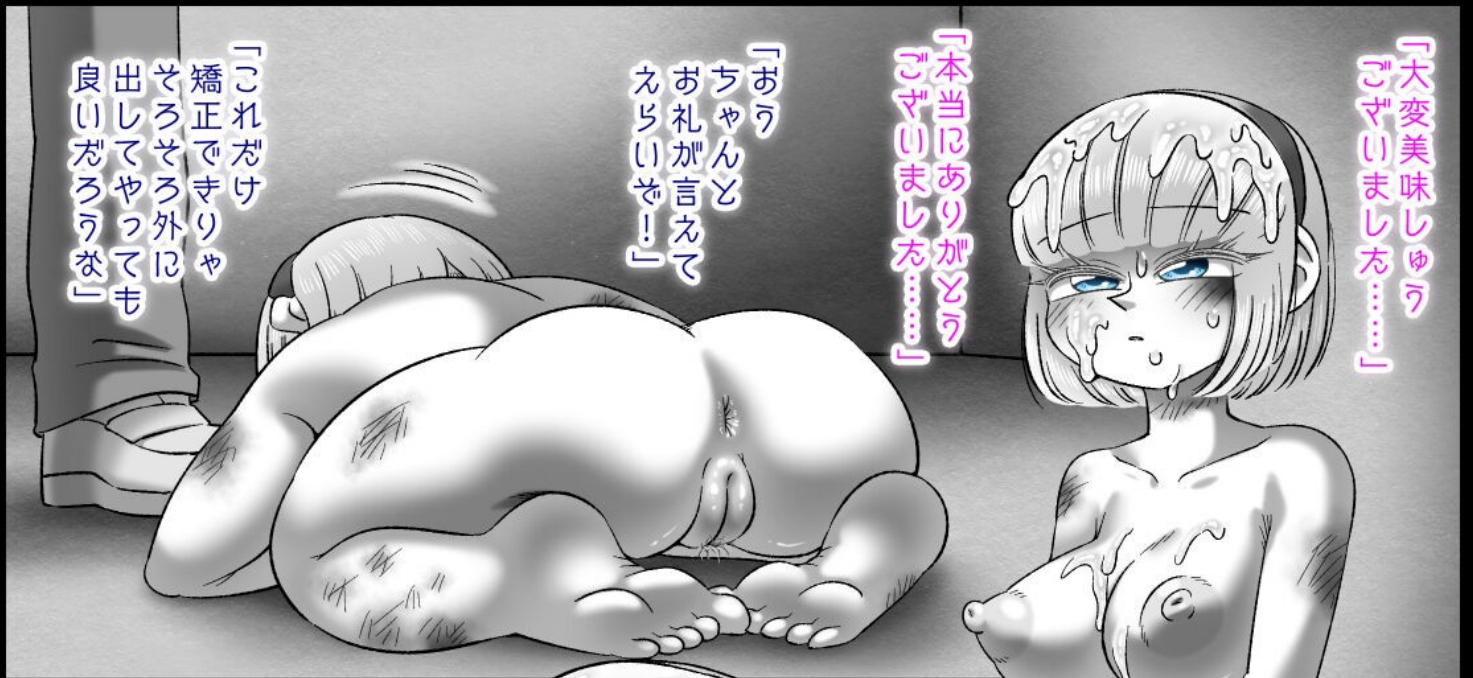
「……………」

「大変美味しゅう
ございました……」

「本当にありがとう
ございました……」

「おう
ちゃんとお
れが言えて
えらいぞ！」

「これだけ
矯正できりゃ
そろそろ外に
出してやって
良いだろうな」



「ゆ 許して
くれるの!？」

「ああ だが……」

「最後の試験に
合格できたり
だがな……」



「……と言う
ワケで……」

「シャーロットが
ちゃんと反省してるが
皆に判断してもらおう」

「反省文を
書かせたから
皆聞いて
やってくれ」

「よし
シャーロット
反省文を
読み上げなさい」

もじ

もじ



「はい……」



(何が反省文だ
クソ野郎……!!!)

(アタシをここまで
コケにしゃがつて!
このまゝ外に出ろ
すぐさまお父様に
全て言い付けて
全員破滅させてやる!)

(覚悟しろ
下等生物
共が……!!!)

「あひっ!?!」

ビタン!

びるるる

「ちよつ……!!
いきなり何
すんのよーっ!?!」

「なあに!!
ちよつと浣腸
しただけマ」

「はあ!?!」

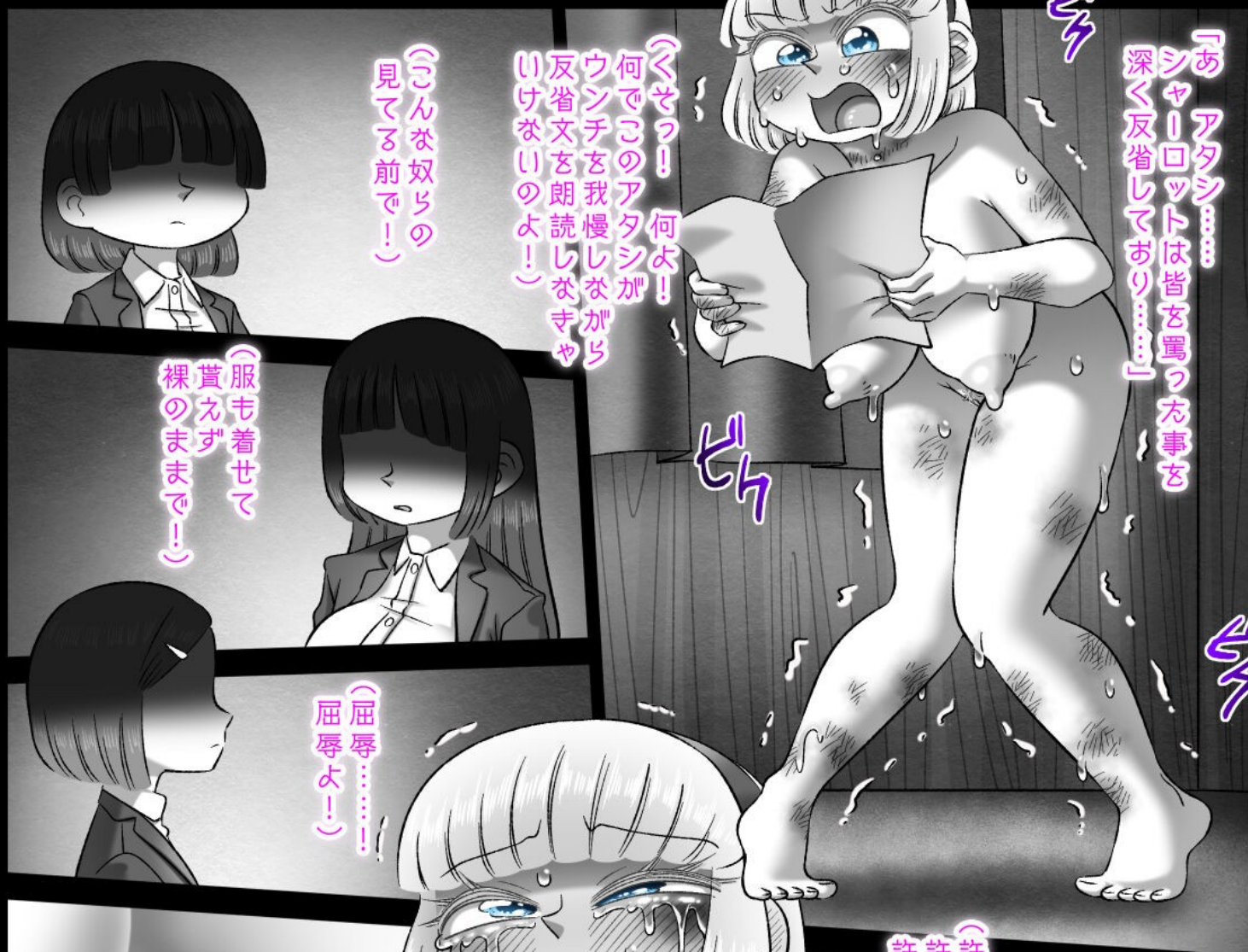
「本当に反省してるなら
糞を我慢しながらでも
ちゃんと反省文を
朗読出来るハズだろ?」

(な 何言ってるの
コイツ……?!
意味わかんない!)



「ほーろ早く読み始めないと浣腸液が染み込んで糞が漏れちゃうぞ?」

「くう……キモイ! 本当に最低! 覚えてなさいよ!」



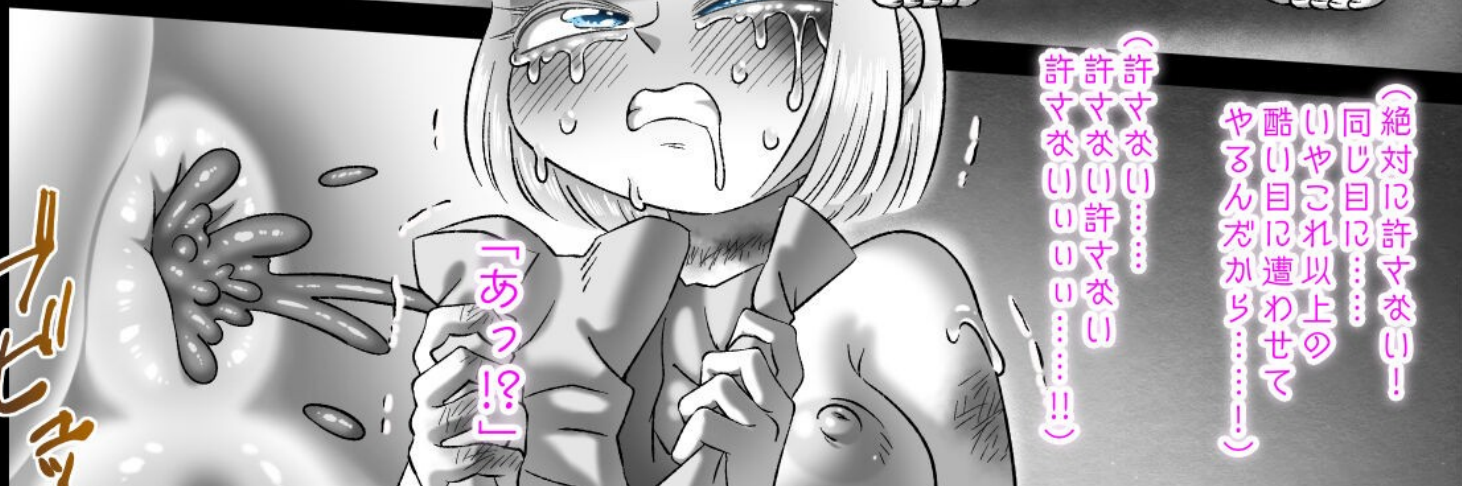
「あアタシ……シャーロットは皆を罵つた事を深く反省しており……!」

「くそっ! 何よ! 何でこのアタシがウンチを我慢しなきゃ反省文を朗読しなきゃいけないのよ!」

「こんな奴らの見てる前で!」

「(服も着せて貰えず裸のままで!)」

「(屈辱……! 屈辱よ!)」

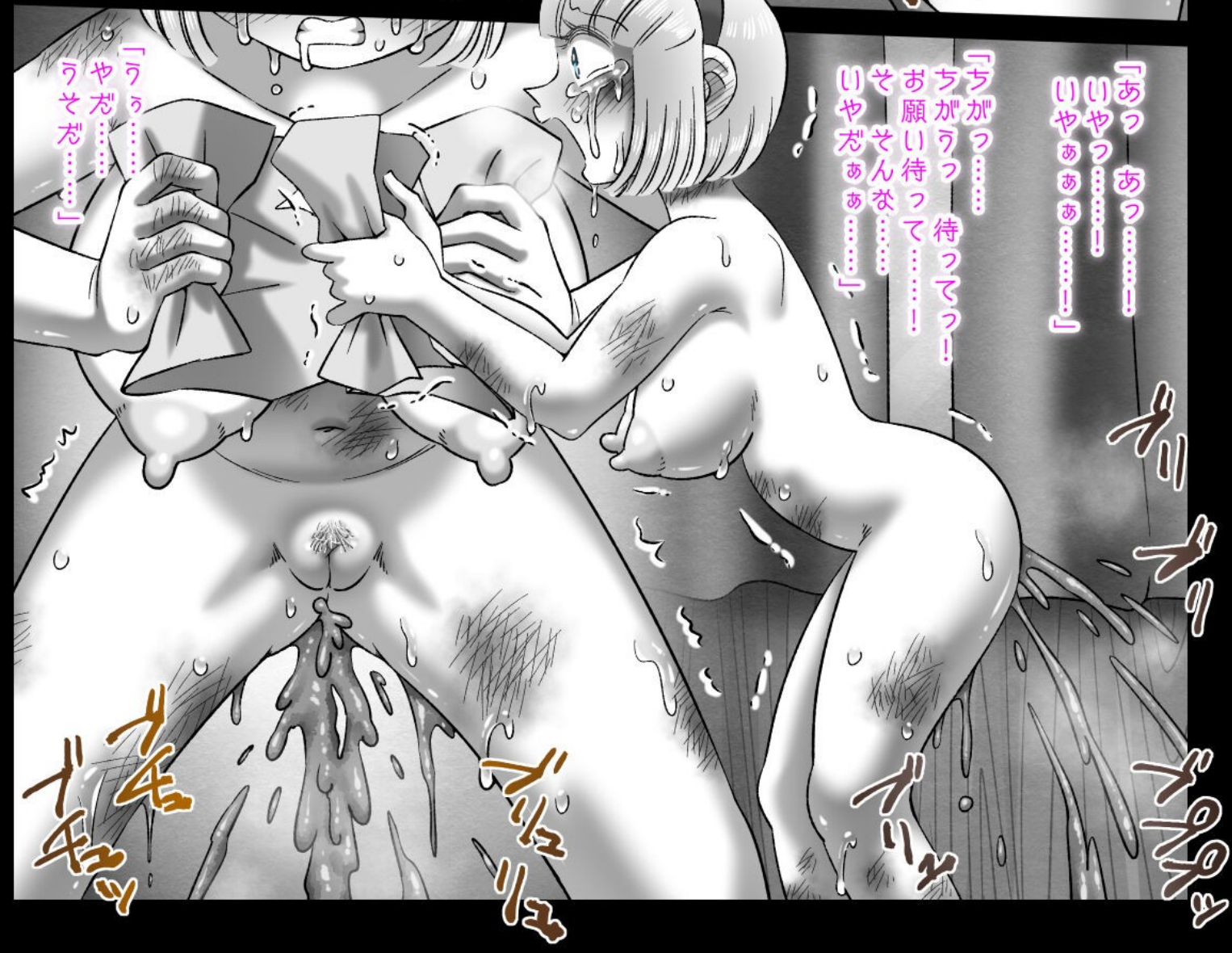


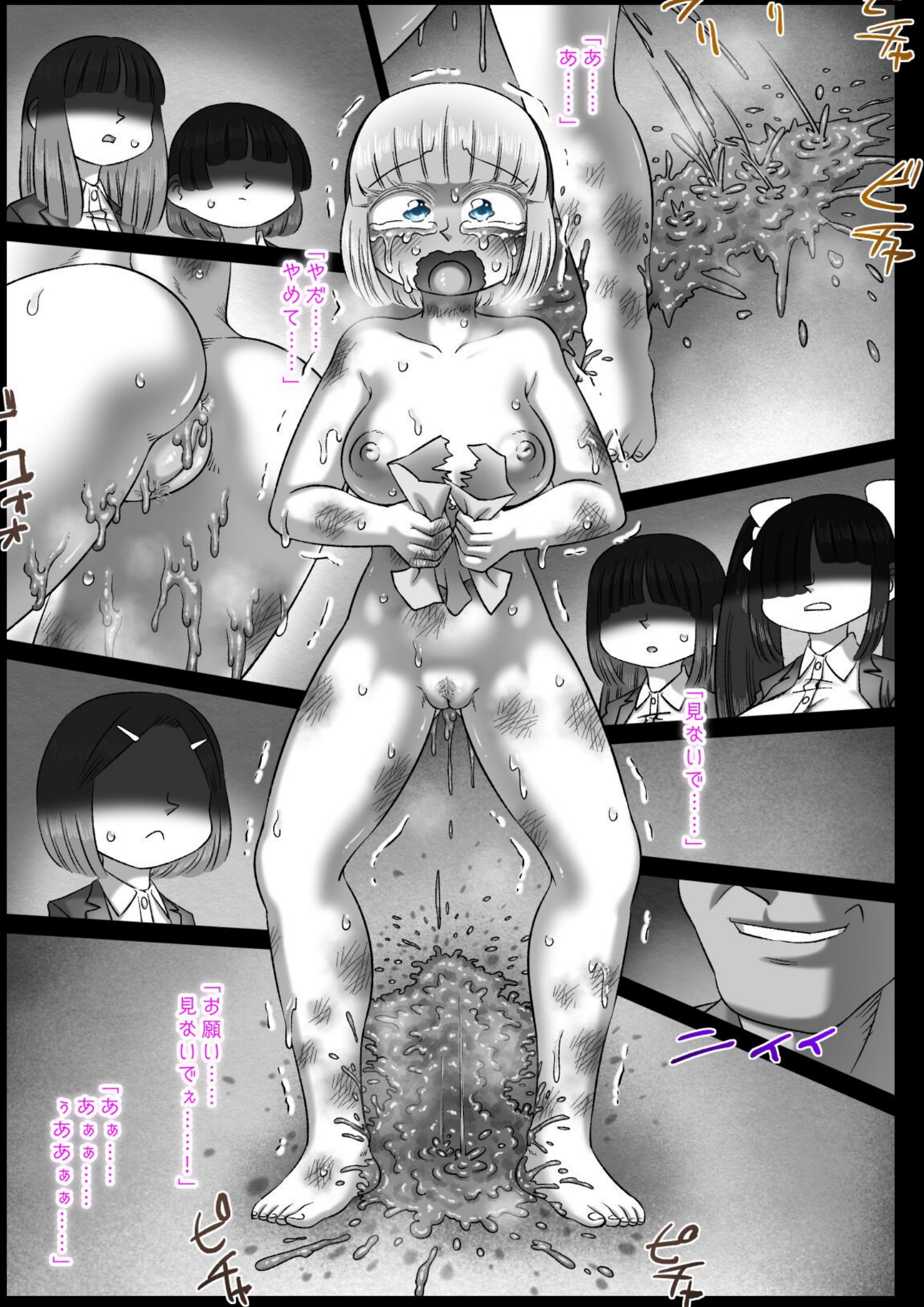
「絶対に許さない! 同じ目に……いやこれ以上の酷い目に遭わせてやるんだから……!」

「許さない……! 許さない許さない許さない……!!」

「あっ!?!」

「アッ!?!」





「あ
あ……」

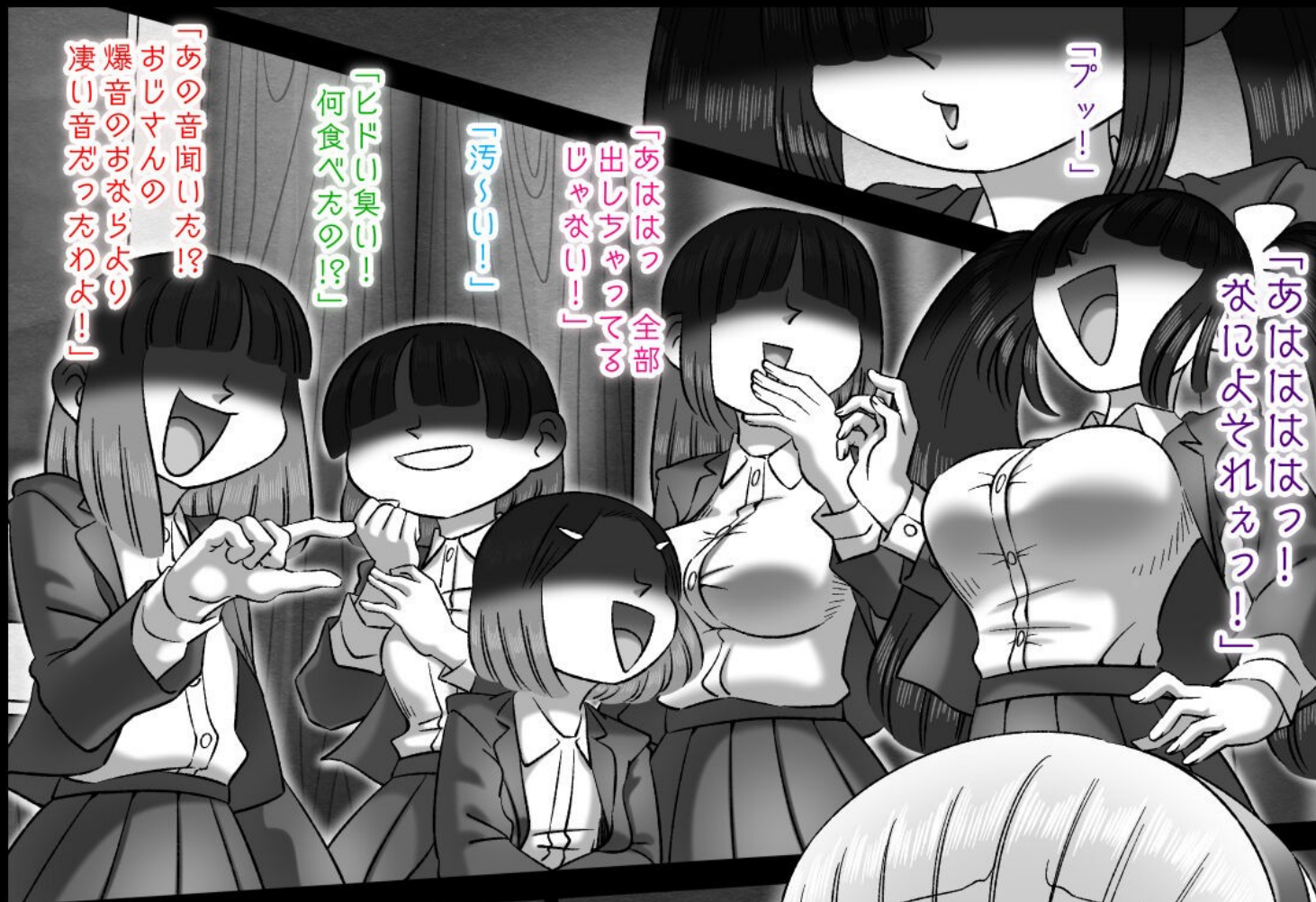
「やだ……
やめて……」

「見ないで……」

「お願い……
見ないでえ……！」

「ああ……
ああ……
うああああ……」

ニヤニヤ



「プツッ！」

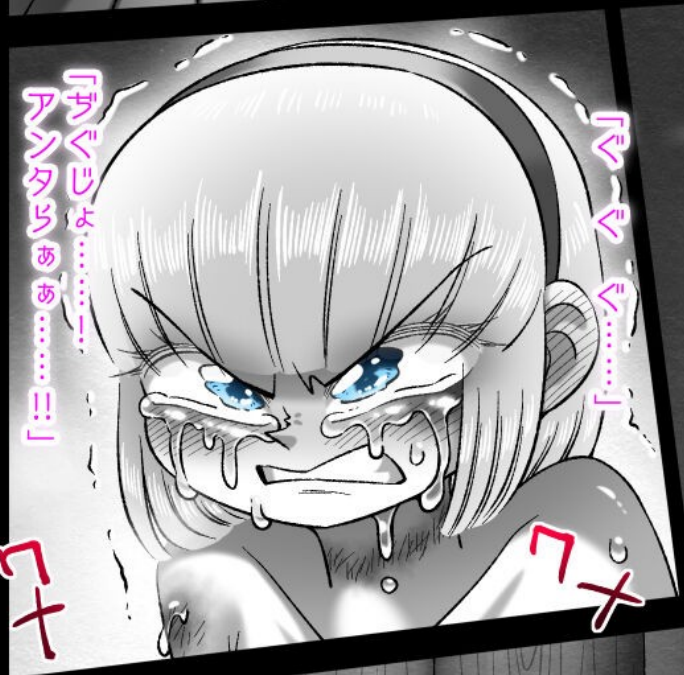
「あははははっ！
なによそれえっ！」

「あははっ 全部
出しちゃって
じゃない！」

「汚〜い！」

「ビドい臭い！
何食べたの!？」

「あの音聞いた!?
おじさんの
爆音のおならより
凄い音だっ方わよ!」



「サグじよ……!!
アンタらああ……!!」

「ぐぐぐ……!!」

「……!!」



「ふざけんなあ!!」



どくどく

「ずっけんじゃねえ!!
あんな浣腸すれ方ど
漏らすに決まってるだろ!!
それを笑いやがってるエ!!」

「誰の為に
謝ってやってると
思ってるんだ!!」

「凡人風情が
調子に乗るん
じゃねえ!!」

「殺すぞ!!」



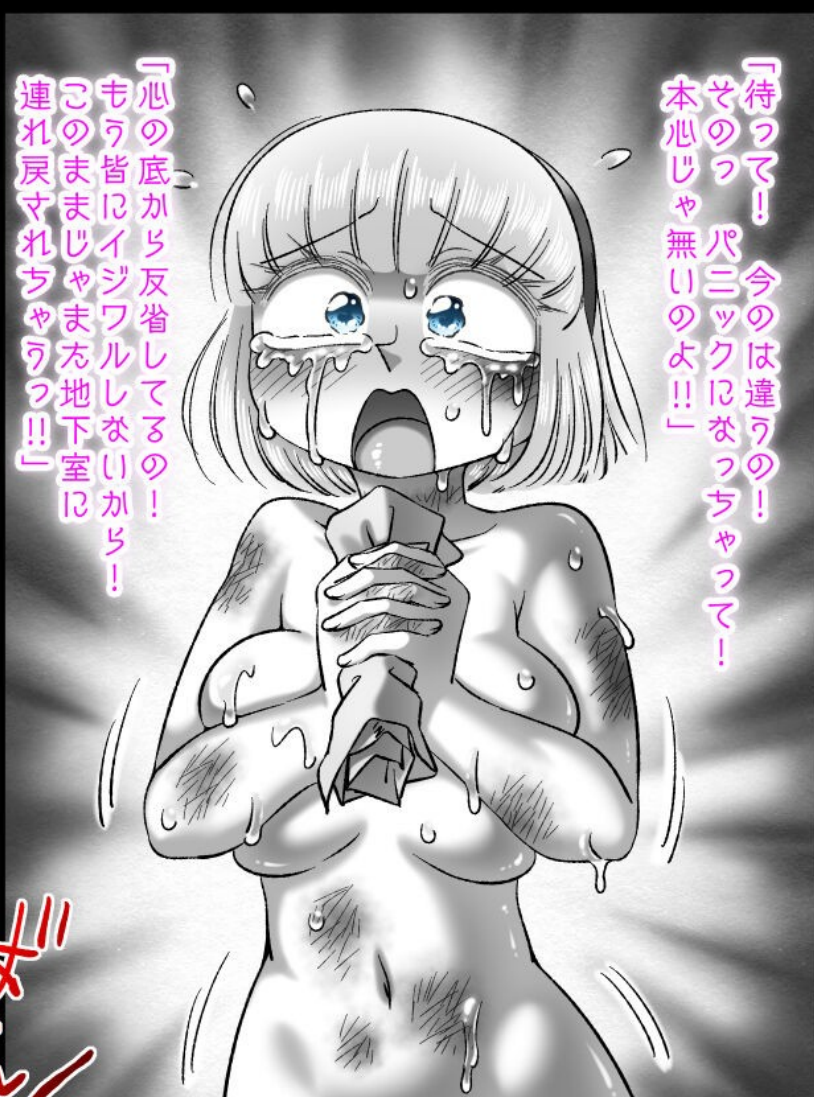
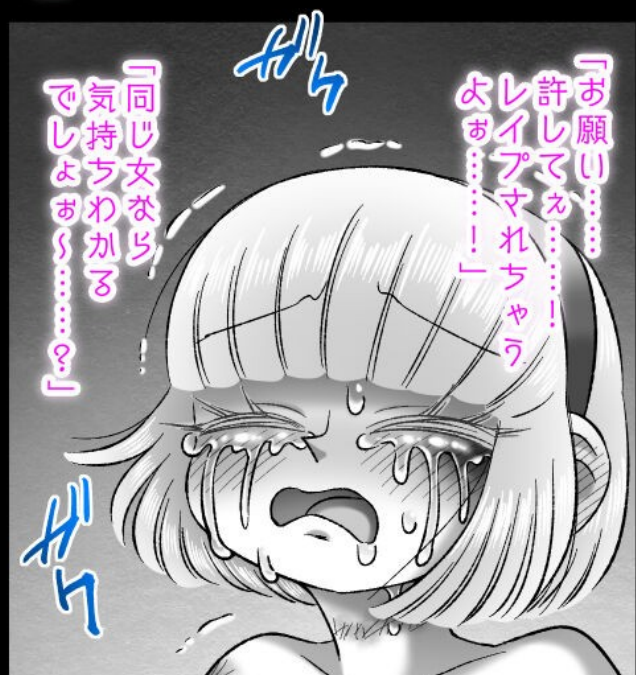
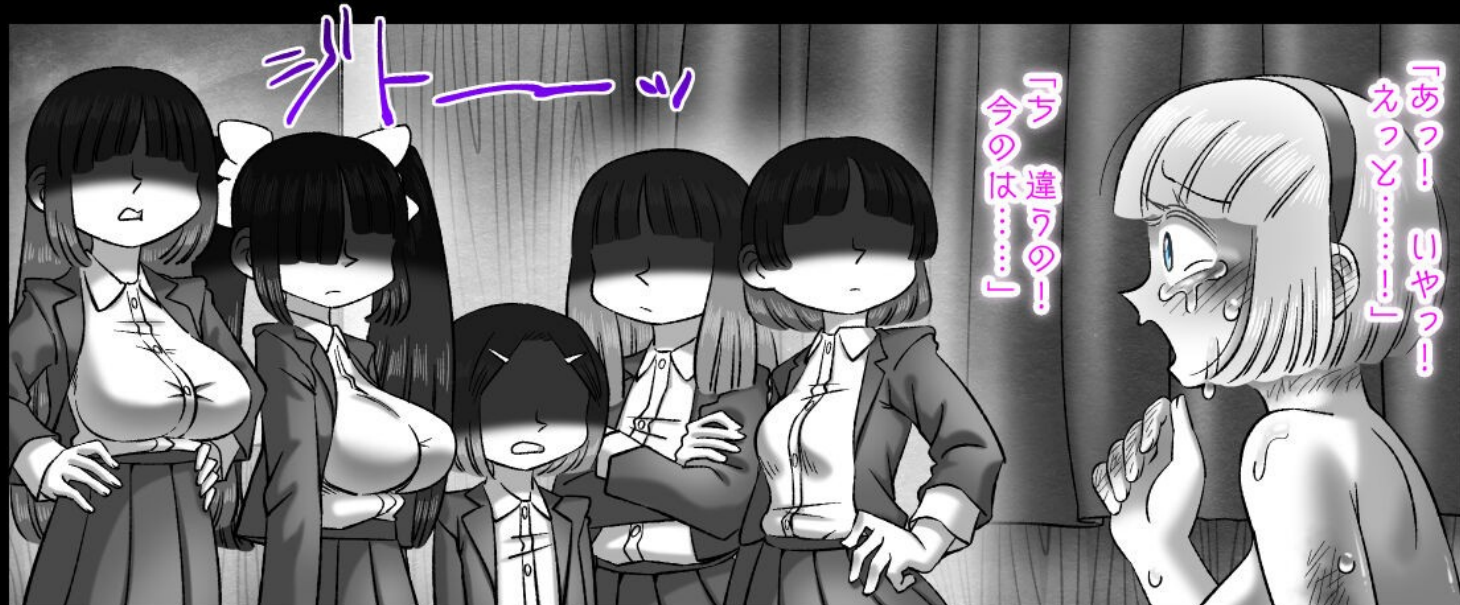
「フリー!!
フリー!!」

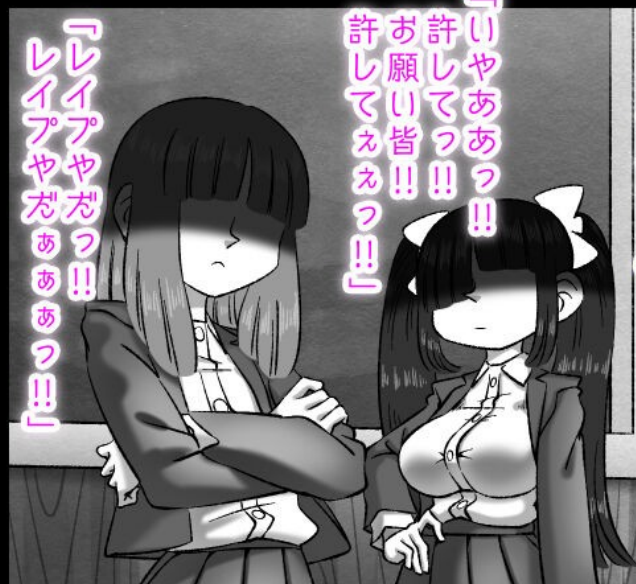
「フリー……!!」

「……」

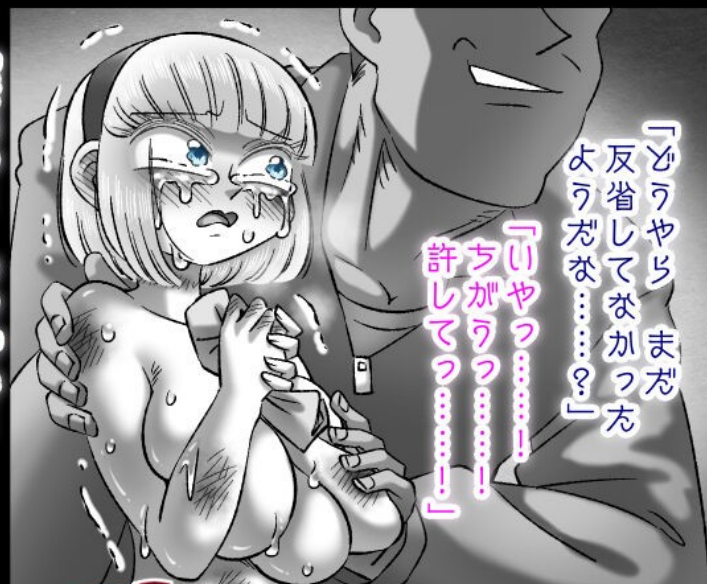
「あ……」



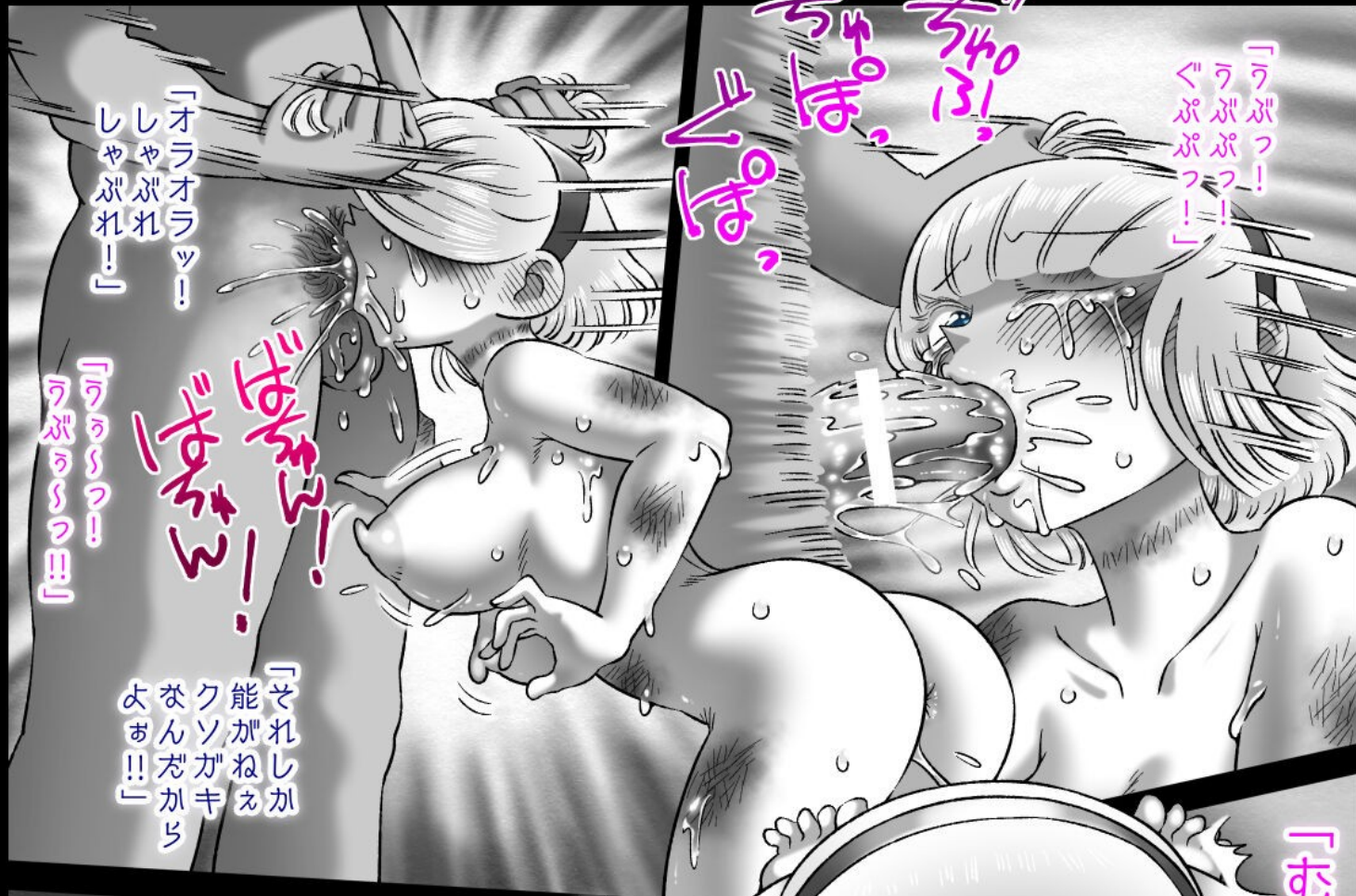




「来いっ! クソガキ!
徹底的にレイプ
してやる!」







「オラオラッ！
しゃぶれ
しゃぶれ！」

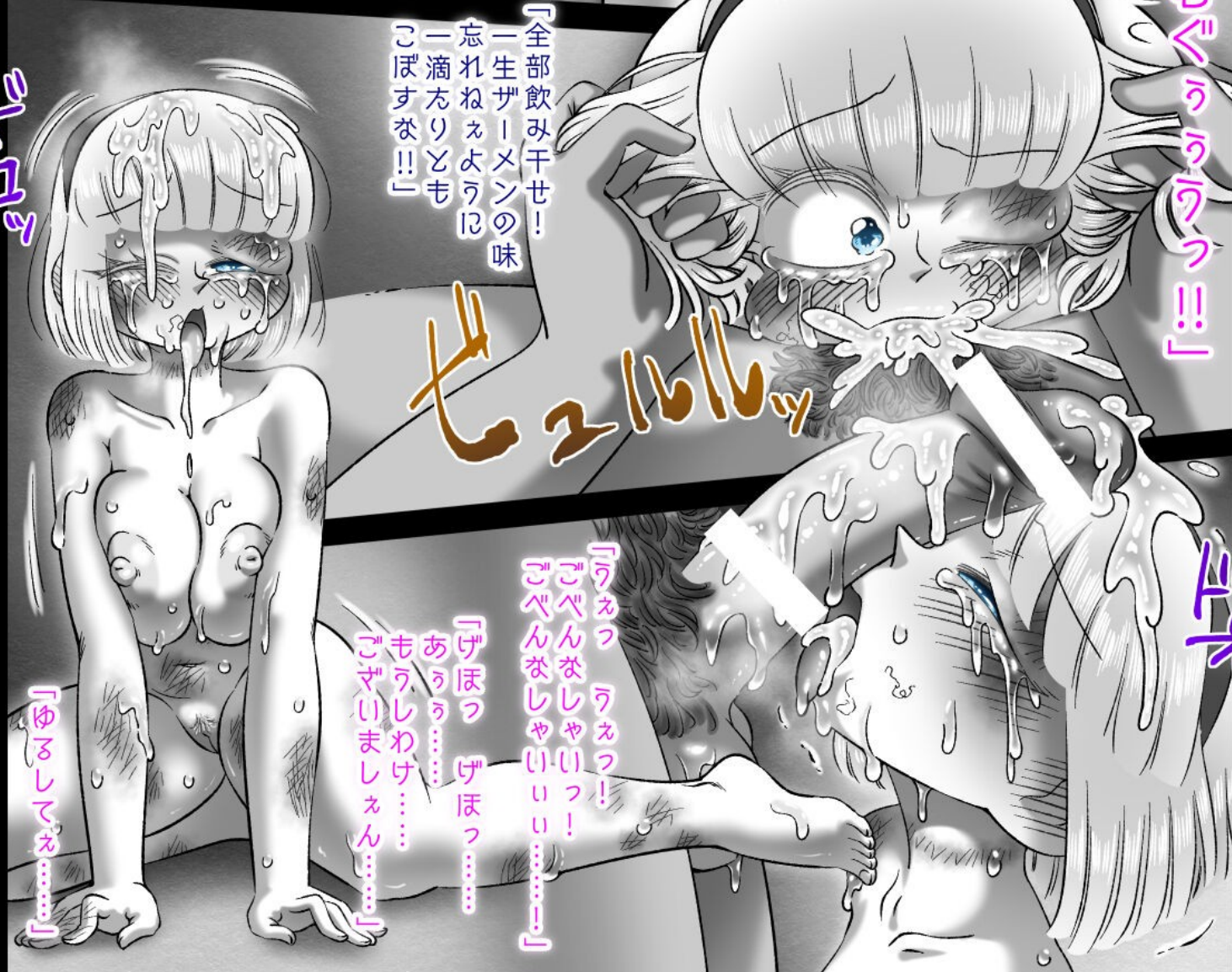
「うううっ！
うううっ！！」

「ばぁん！
ばぁん！」

「それしか
能かねえ
クソガキ
なんだから
よお！！」

「うううっ！
うううっ！！」
「うううっ！
うううっ！！」

「うううっ！
うううっ！！」



「むぐうううっ！！」

「全部飲み干せ！
一生ザーメンの味
忘れねえように
一滴たりとも
こぼすな！！」

「うううっ！
うううっ！！」

「うううっ！
うううっ！！」
「ごべんなしやいっ！
ごべんなしやいっ！」

「げほっ げほっ
あうう……
もうしわけ……
ございません……」

「ゆるしてえ……」

「うううっ！
うううっ！！」

「うううっ！
うううっ！！」

「オラ！
レイプの時間だ！
股開きやがれ！」

「ぎゃああつ！
やだっ！ やだああつ！
レイプやだあああつ！！」

「ペンギンしゃんっ！
シャーリーの
ペンギンしゃんの
ぬいぐるみどこあつ！？」

「知りねえよ！！
ギンギンのペニスなり
ここにあるケドよあ！！」

「やだあああつ！！
レイプやなのおおあつ！！」



「クソガキ！！
クソガキ！！
犯まれろ
クソガキ！！」

「んぐえっ！
おげえっ！
だじゅげええっ！！」

「赤ちゃん出来るだ？
もう出来てんだよ！！」

「うしよっ！
うしよっ！！」

「よく見ろ！！
テメエはもう
妊娠してんだよ！！」

「いやっ！
いやあああつ！！」



「ふーっ
ふーっ
あかちゃん
でさちやううう……」

△判定 △終了

ゼクン!

「金髪美少女生オナホは
今日も気持ち良いゼエ!」

「うっ……
うぐっ……」

「もっと色っぽい声で
鳴けねえのか コラッ!!」

「んざいいっ!!」

おん
いっ

はぁん!!

はぁん!!
はぁん!!
はぁん!!

「はーっ
はーっ……」

たっ、

おん、

「だいが腹も
膨れて来たなァ!」

「赤ん坊に挨拶だ!
腰を振れ! 腰を!」

「はあっ はあっ
はいっ……!」

はぁん!!
はぁん!!
はぁん!!

おん
はぁん!!
はぁん!!

「ガキこすえち
子宮で精液
啜りやがれっ!!」

バクバク

「んざひいひいひいっ!!」

ドン

アハハ

びりびり

「はーっ
はーっ……」

「や……
しゅっまん……
やだあ……」

ゼ
フラ
マッ

「そろそろ精神
ぶっ壊れるか？
まあ壊れたら
壊れたでレイプが
楽で助かるがな!」

ドン

バク

バク

バク

バク

「よかつた〜！
間に合っ 方みちい」

「うわ〜！
なんかすごい
生臭いね〜
羊水の臭い？」

「うっ うっ……
うぐっ……
産まれる……
産まれるう……」

「苦しいよ……
だ だれか……
助けてえ……」

ぴゅっ

ぴゅっ

出産予定日
3/0

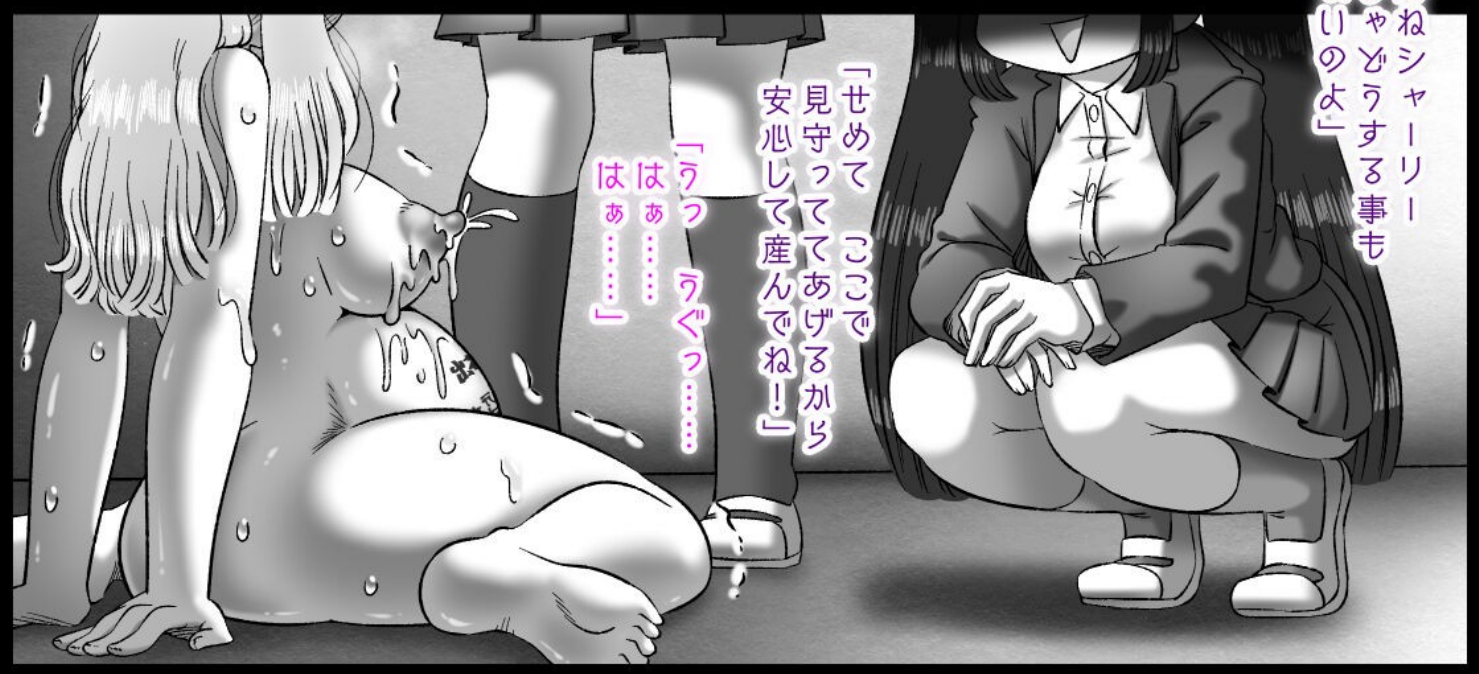
レイプ無
オナホ女

「生肉女
頑張れ！
即受胎
オナホ女
性癖
似合ふ
元氣な女
産むわ〜」

「ごめんねシャーリー
私達じゃどうする事も
出来ないのよ」

「せめて ここで
見守ってあげるから
安心して産んでね！」

「うっ うぐっ……
はあ……
はあ……」



産まれた……
シャリーと
先生の
赤ちゃん……」

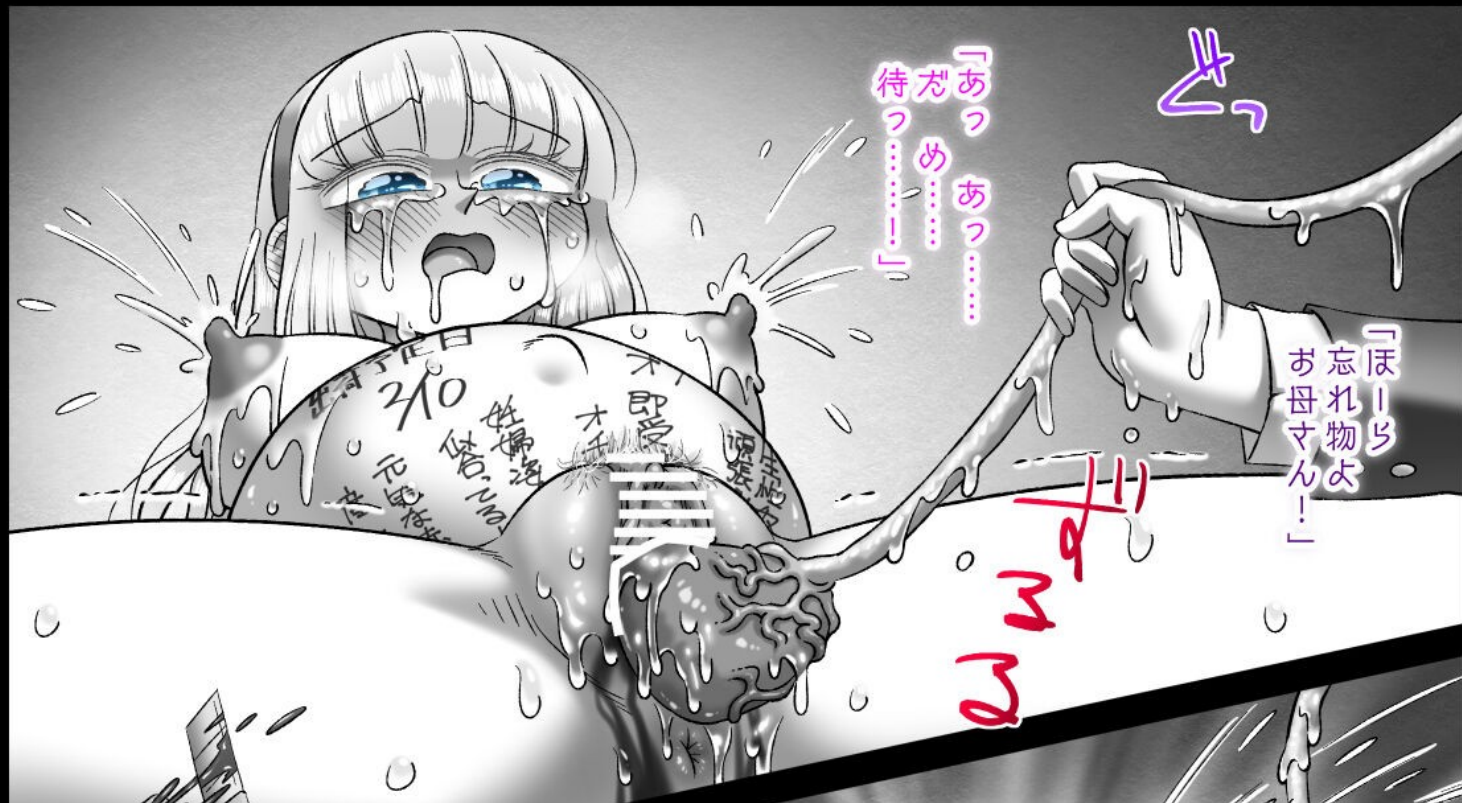
「レイプで
孕まされ
赤ちゃん
本当に
出てきた
……」

は は は
 し し し
 し し し
 つ つ つ
 ……
 ……



「う
れひ
あか
ひ
やん
ま」

あ、ま、



「良い物見せて貰ったわシャーリー」

「他の皆にも可愛い赤ちゃんを見せびらかせてあげなきゃね」

「アンタはそこでゆっくり休んでなさいな」

「ま……待って……赤ちゃん……アタシの赤ちゃん……」

「連れてかないで……アタシの赤ちゃんなのよ……」

ずん

「まさかアンタ育てるつもり？ダメダメ！」

「アンタみたいなのがクズが育てる性格が歪むわ！」

「うそ……いや……待って……」

「この子は皆で優しい子に育ててあげる」

「お願い……赤ちゃんを連れてかないでえ……」

「そんなに赤ちゃんが欲しいならまろ先生に孕ませてもらってろ？」

「じゃあねシャーリー元気でレイプされ続けてね」

終

